

平成24年度大阪府学力・学習状況調査結果について

～はじめに～

調査の目的について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、府内全体との状況との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

全国学力・学習状況調査との違い

平成22年度までは、全国学力・学習状況調査の結果について分析を行ってきた。しかし、昨年度は、全国調査は実施されず、これに代わるものとして大阪府学力・学習状況調査が、大阪市、堺市を除く府下全市町村で実施されたため、その結果について分析を行った。本年度は、全国調査が抽出調査であったため、大阪府調査を全小中学校で実施した。両者の出題傾向は概ね同等であり、アンケート調査項目については、同じ項目も多く含まれている。従って、教科問題の難易度、調査実施時期等、昨年度までとの違いを踏まえた上で、経年比較も含め分析を行った。また、大阪府学力・学習状況調査の中学校には、国語・数学に加え、英語が実施されている。

調査の概要

調査日：平成24年6月12日（火曜日）
調査対象：小学校6年生 54校 4439人（後日実施を含む）
中学校3年生 26校 4155人（後日実施を含む）

調査内容

小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）
英語（「知識」及び「活用」に関する問題）
小中共通：児童生徒質問紙調査
（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
学校質問紙調査
（指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

平成 24 年度大阪府学力・学習状況調査 結果と分析

調査結果について

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは児童生徒の学力ならびに児童生徒の学力と関係する要因については測ることができないことを踏まえ、全国学力・学習状況調査と同様、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、スクラムを組み児童生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行いました。

教科の結果と分析

教科と教科の意識調査の結果について

- ・ 小学校国語 ・ 小学校算数 ・ 小学校教科の意識調査
- ・ 中学校国語 ・ 中学校数学 ・ 中学校英語 ・ 中学校教科の意識調査

生活習慣や学習意識に対する調査ならびに学校に対する質問紙について

質問紙の回答のうち、特徴的な項目を挙げています。また、本市では独自に全小中学生とその保護者を対象にした学習状況等調査を行い、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの成長過程についての分析も行っています。

- ・ 生活習慣や学習意識に対する調査ならびに学校に対する質問紙について
- ・ 平成 24 年度学力向上対策学校支援事業（東大阪市）に係る学習状況等調査・保護者調査 第 5 回アンケートの結果及び分析＜平成 25 年 1 月頃実施予定＞

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

児童生徒質問紙の回答と平均正答率（小学校：国・算の A・B、中学校：国・数の A・B 及び英語のそれぞれの調査の平均正答率をさらに平均化したもの）の関連性をクロス集計により分析しています。

- ・ 児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

生活習慣や学習意識に対する調査ならびに 学校に対する質問紙について

～特徴的な項目結果（質問紙より）～

小学校児童質問紙より

<学校での学習・生活に関すること>

- ・「解答を文章で書く問題」「求め方を書く問題」について最後まで努力した児童の割合は年々高くなり、9割近くになった。
- ・読書は好きですと答える児童の割合は約8割で、府平均を上回っている。
- ・普段の授業で、学級のみinnで話し合う活動をよく行っていると答える児童の割合は年々高くなり、府平均を上回っている。
- ・テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強すると答える児童の割合は年々高くなり、府平均を上回っている。
- ・苦手な教科の勉強をしていると答える児童の割合は年々高くなっている。

<家庭での学習・生活に関すること>

- ・学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていると答える児童の割合は府平均よりも低い、昨年と比べ高くなっている。
- ・携帯電話の使い方について、家の人と約束をしたことを守っていると答える児童の割合は年々高くなり、府平均を上回っている。
- ・近所の人に会ったときは、あいさつをしていると答える児童の割合は9割を超え、府平均を少し上回っている。
- ・家の手伝いをしていると答える児童の割合は、府平均よりも高い。
- ・新聞やテレビのニュースなどに関心があると答える児童の割合は年々高くなり、府平均とほぼ同じである。
- ・学校で友だちに会うのが楽しみと答える児童の割合は昨年度より低くなっている。

<自分自身に関すること>

- ・自分にはよいところがあると答える児童の割合は、府平均と比べて低いが、年々高くなり、7割を超えた。

中学校生徒質問紙より

<学校での学習・生活に関すること>

- ・ 解答を言葉や式を使って説明する問題に対して、最後まで解答を書こうと努力したと答える生徒は8割程度で、府平均をわずかに下回っているが、昨年度より大幅に高くなっている。
- ・ 国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く生徒の割合は、昨年度より低くなっており、府平均をわずかに下回っている。
- ・ 数学の授業で問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考える生徒の割合は、昨年度より高くなっている。
- ・ 英語の授業で、自分の考えや表現を英語でスピーチすることがある生徒の割合は、昨年度より高くなっている。
- ・ 学校のきまりを守っていると答える生徒の割合は、昨年度より高くなっている。
- ・ 普段の授業で、自分の考えを発表する機会がよくあると答えた生徒の割合は、昨年度より高くなっている。
- ・ 学校で実施している放課後や休みの日の学習教室などが役立ったと答えた生徒の割合は、昨年度より高くなっている。

<家庭での学習・生活に関すること>

- ・ 家で、自分で計画を立て学習すると答える生徒の割合は年々高くなっている。
- ・ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強している生徒の割合は、年々高くなっている。
- ・ 家の手伝いをしていると答える生徒の割合は昨年度より高くなっている。
- ・ 家や図書館で、10分間以上読書をしている生徒は5割半ばで、府平均を上回っている。
- ・ 家で苦手な教科の勉強をしている生徒は4割程度で、府平均を下回っている。

<自分自身に関すること>

- ・ 将来の夢や目標を持っていると答える生徒は7割程度で、本年度は府平均をわずかに上回っている。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は昨年度より高くなっている。

学校質問紙より

<小中共通>

- ・すべての学校で、大阪府学力・学習状況調査の結果を分析し、指導計画等の作成や普段の授業改善に反映させている。
- ・地域の人が自由に参観などができる学校公開日を設けている学校の割合や、ホームページで学校の教育活動について定期的に情報提供を行っている学校の割合は、府平均を上回っている。
- ・教員全員が参加する授業研究を伴う校内研修会の回数は、全体として増加傾向にある。

<小学校>

- ・児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行っている学校の割合は、年々増加し、府平均を上回っている。
- ・授業中の私語が少なく落ち着いている学校の割合は年々増加し、府平均を上回っている。
- ・国語の授業で目的や相手に応じて話したり聞いたりする指導をよく行っている学校の割合、及び、算数の授業で実生活における事象との関連を図った指導をよく行っている学校の割合は、いずれも増加している。
- ・児童に対して、本やインターネット等を使い、資料を調べさせる指導をよく行っている学校の割合は、昨年よりも減少している。

<中学校>

- ・学校や地域でのあいさつについて、よく指導している学校の割合は、昨年度に比べて大きく増加し、府平均を上回っている。
- ・授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行っている学校の割合は年々増加し、府平均を上回っている。
- ・国語の授業において、様々な文や資料を読む指導を行っている学校の割合は昨年に比べ増加し、府平均を上回っている。また、数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行っている学校の割合も昨年よりも大きく増加し、府平均との差はほとんどない。
- ・生徒は授業中の私語が少なく落ち着いている学校の割合は、昨年よりも減少している。

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

～教科と生活習慣・学習環境等に関する調査のクロス集計結果より～

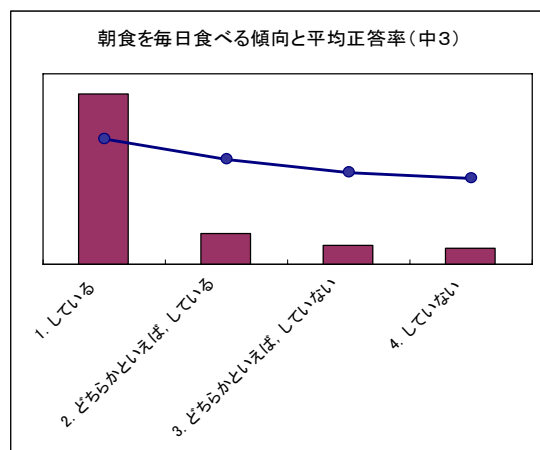
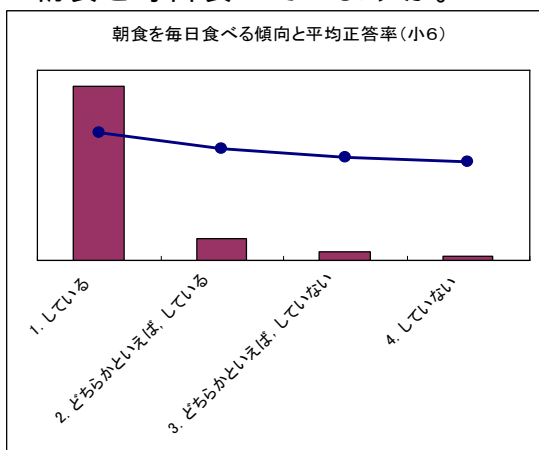
各教科の平均点と生活習慣・学習環境等の相関関係を示しています。それぞれの項目を選んだ児童生徒の人数(棒グラフ)と、その項目を選んだ児童生徒の平均正答率(折れ線グラフ)が分かります。なお、小学校6年生は2教科4区分(国語A・国語B・算数A・算数B)、中学校3年生は3教科5区分(国語A・国語B・数学A・数学B・英語)を平均しています。

本調査結果分析において用いる「学力」とは、本調査実施要領7.調査結果の取扱い(5)に関する配慮事項にある通り、学力の特定の一部をさすものです。

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

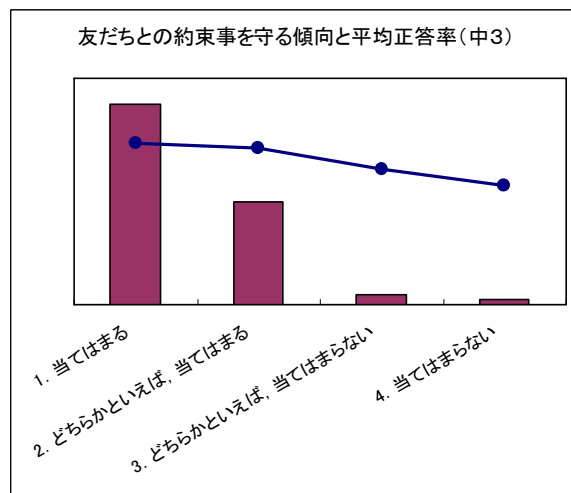
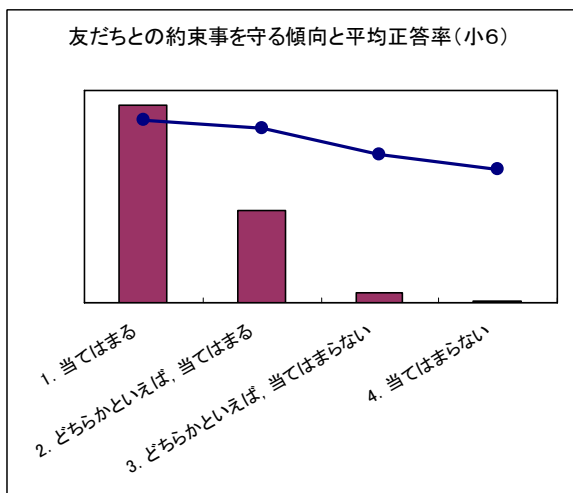
日常の生活習慣に関する質問項目

1 朝食を毎日食べていますか。



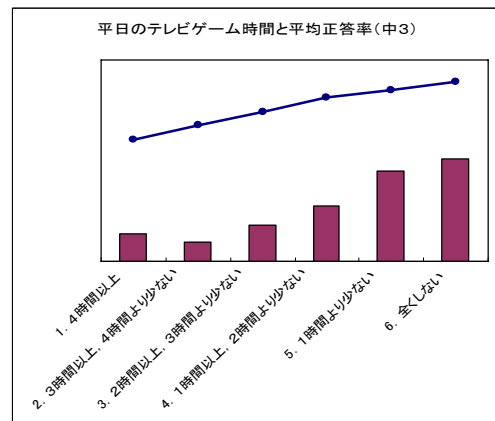
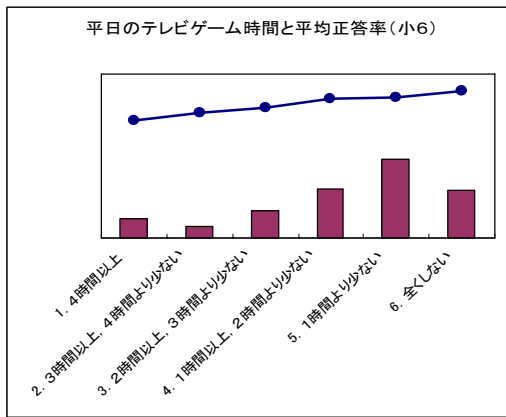
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

2 友だちとの約束を守っていますか。



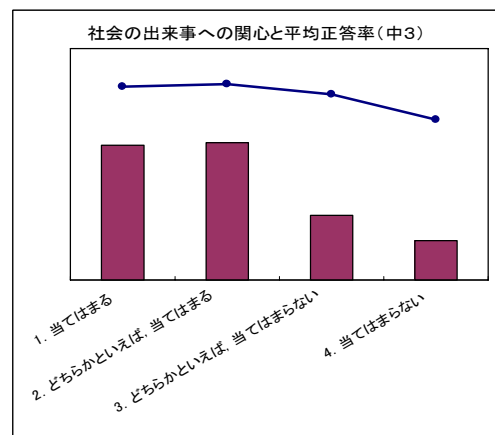
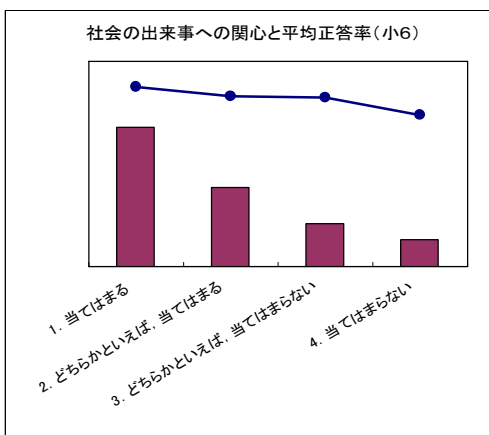
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

3 普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか。



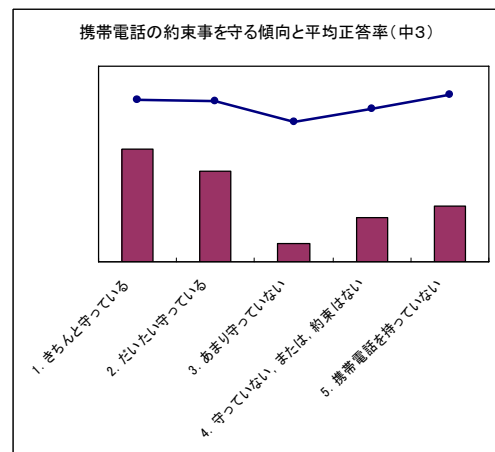
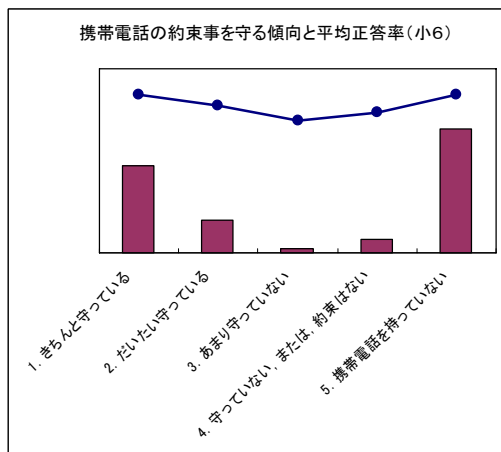
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

4 新聞やニュースに興味がありますか。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

5 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

朝食を毎日食べる児童生徒ほど平均正答率が高い。

友だちとの約束を守っている児童生徒ほど平均正答率が高い。

平日のテレビゲーム時間が短い児童生徒ほど平均正答率が高い。

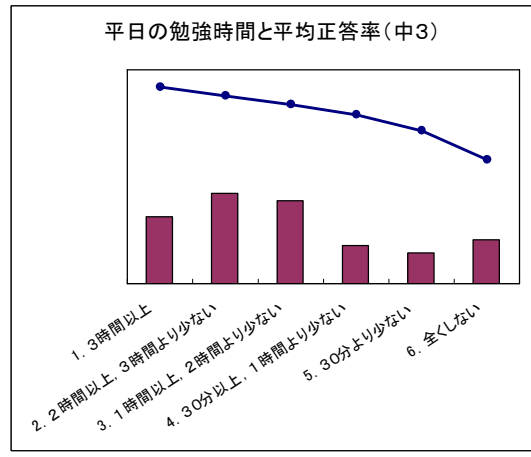
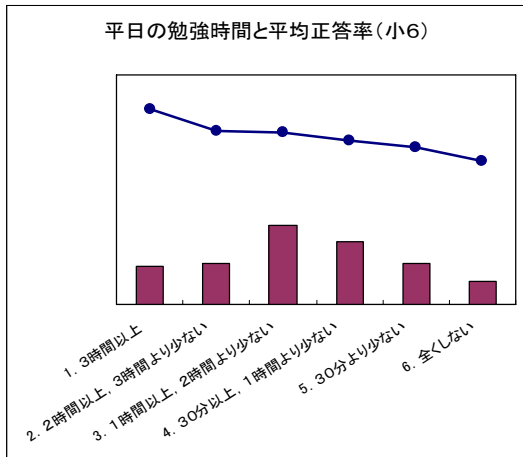
家で新聞やテレビのニュースを見る児童生徒ほど平均正答率が高い。

携帯電話の使い方の約束をきちんと守る児童生徒と、携帯電話を持っていない児童生徒の平均正答率が高い。

上記のほかにも「起床時間と平均正答率」との関係では、生活習慣が確立されている児童生徒ほど平均正答率が高い。

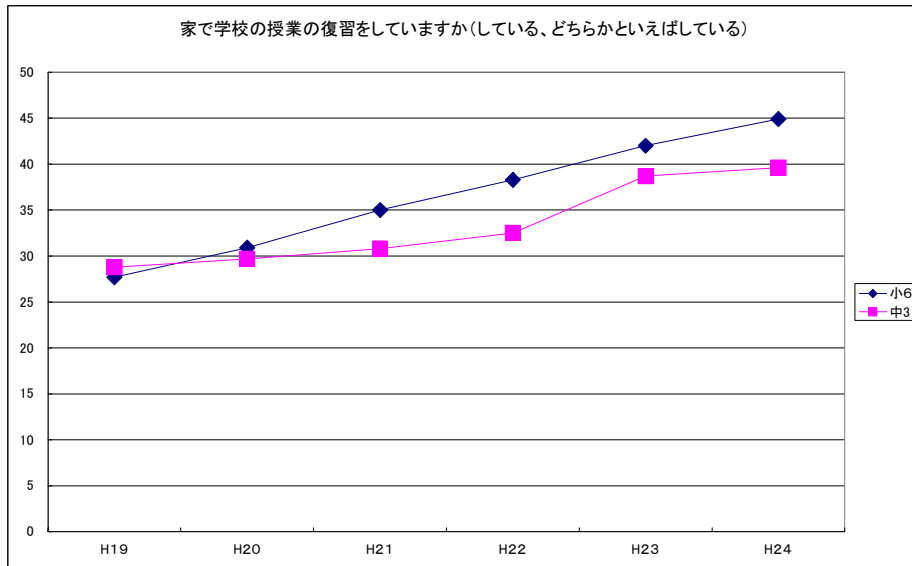
家庭での学習(読書)や家族との関わりに関する質問項目

6 学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



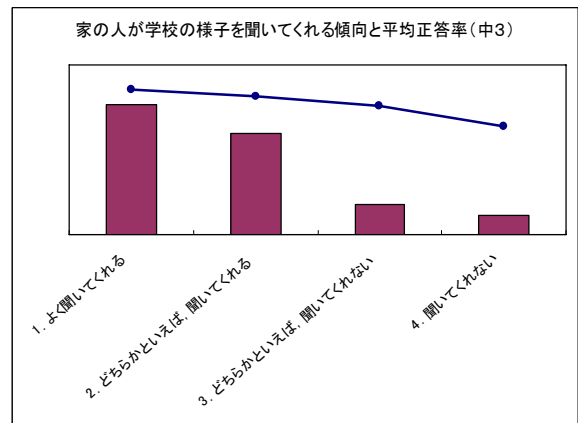
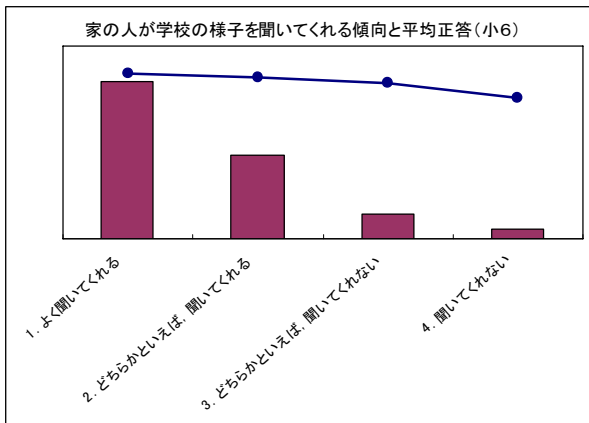
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

【6年間の変化】



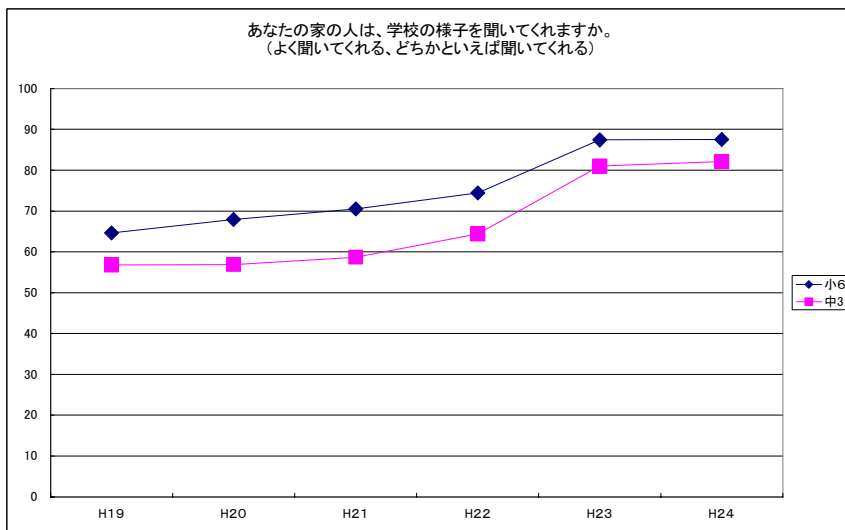
家で学校の授業の復習をしている児童生徒の割合は、平成19年度から毎年増加している。

7 あなたの家の人は、学校の様子を聞いてくれますか。



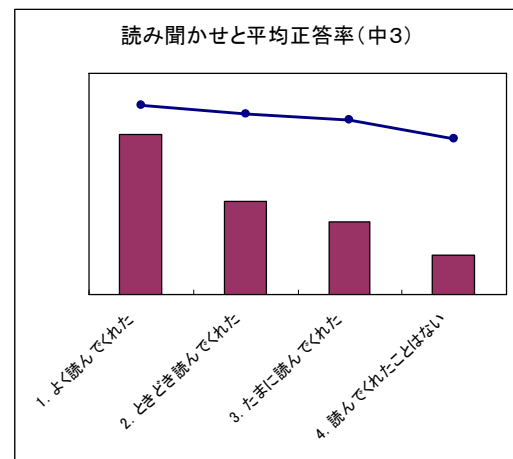
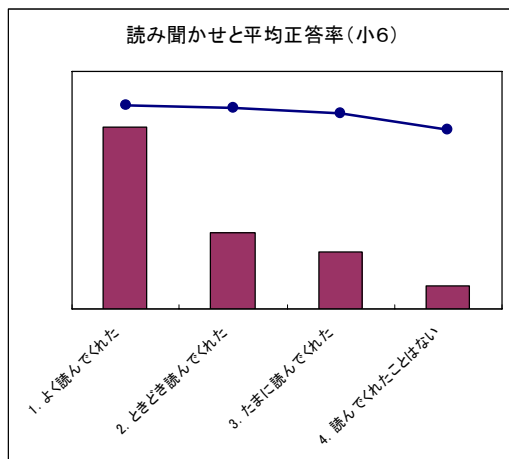
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

【6年間の変化】



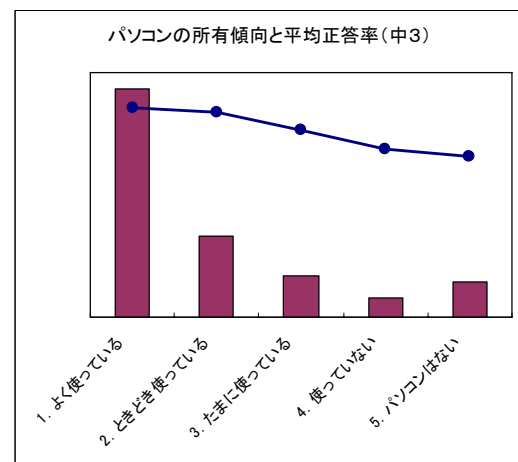
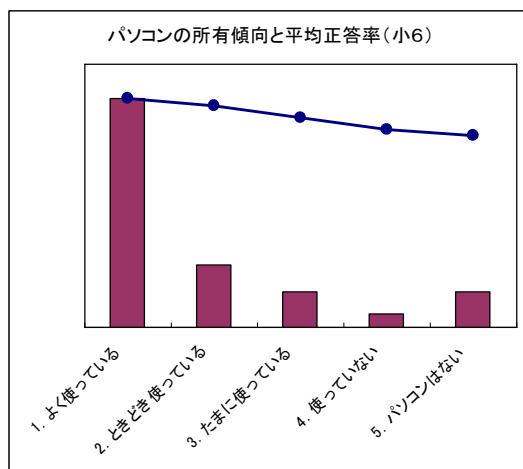
家で学校の様子について話をしている児童生徒の割合は、平成19年度から毎年増加している。

8 あなたの家の人は、小さいころ絵本や本を読んでもくれましたか。



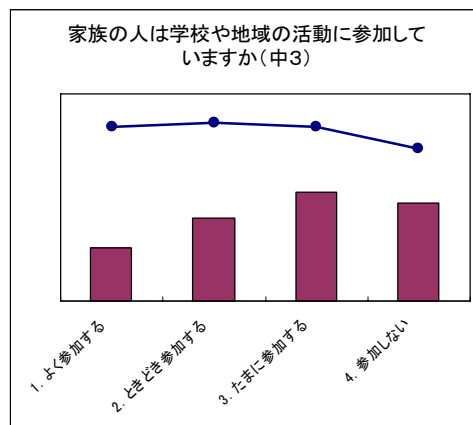
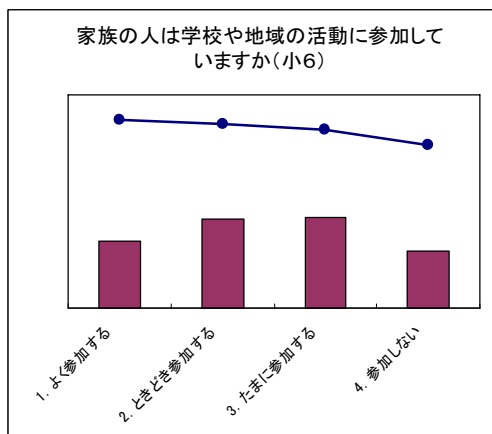
凡例: ■ 割合 % ◆ 平均正答率

9 あなたの家の人は、パソコンを使っていますか。



凡例: ■ 割合 % ◆ 平均正答率

10 あなたの家の人は、学校や地域の活動に参加しますか。

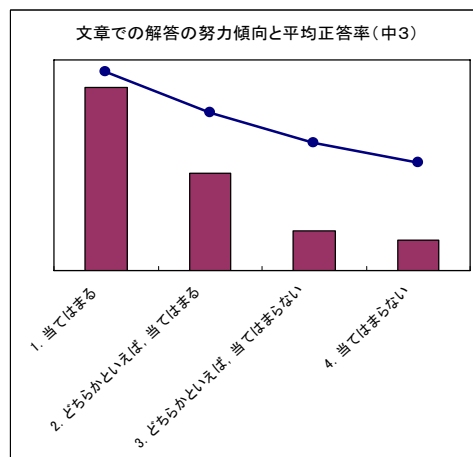
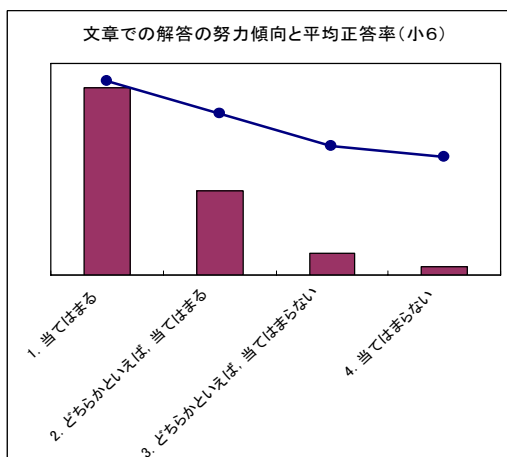


凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

平日家庭で学習する習慣が身につけている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人が学校の様子を聞いてくれる児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人に小さいころ絵本や本を読んでもらった児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人がパソコンを使っている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人が学校や地域の活動に参加する児童生徒ほど平均正答率が高い。
 上記のほかにも「家で学校の宿題をする傾向と平均正答率」「家で予習・復習をする傾向と平均正答率」の関係では、これまで同様、宿題や予習・復習をする児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

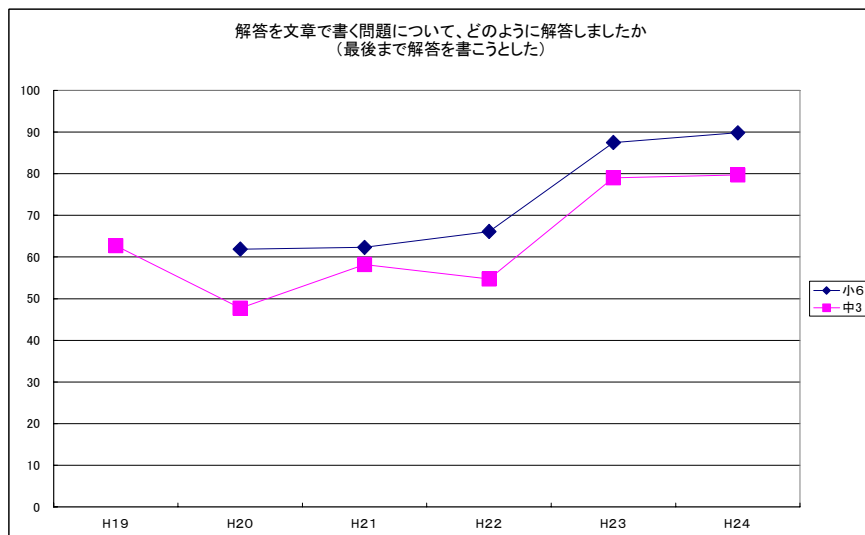
学習意欲・姿勢に関する質問項目

11 国語の調査で、解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。



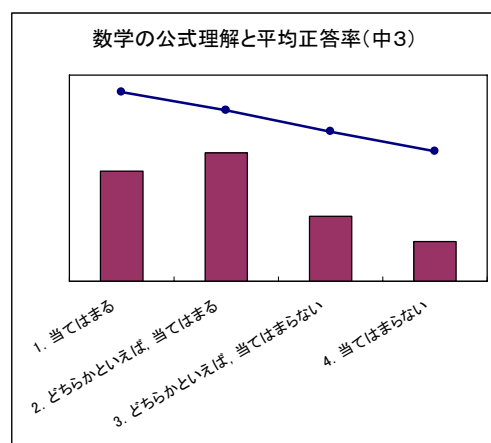
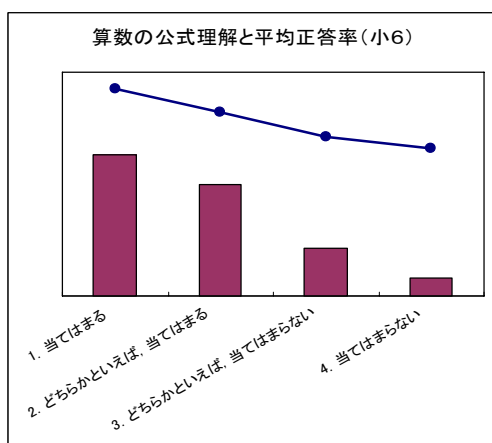
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

【6年間の変化】



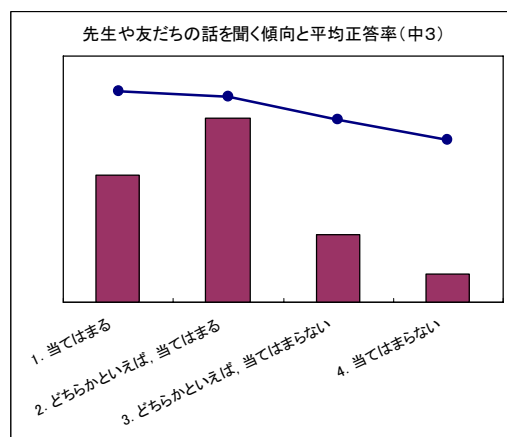
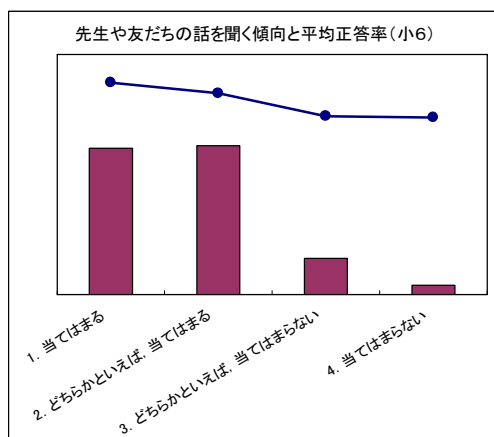
解答を文章で書く問題について最後まで書こうとした児童生徒の割合は、平成19年度から大幅に増加している。(平成19年度小学校調査に本質問はない。)

1 2 算数の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解している。



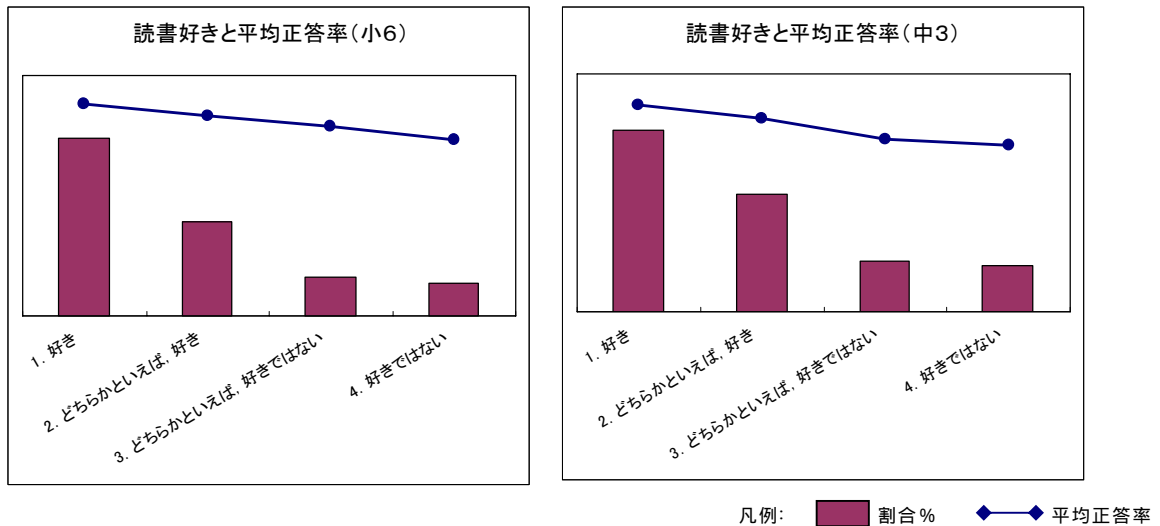
凡例: ■ 割合 % ◆—◆ 平均正答率

1 3 授業や学級活動などでは、先生や友だちの話をよく聞いている。

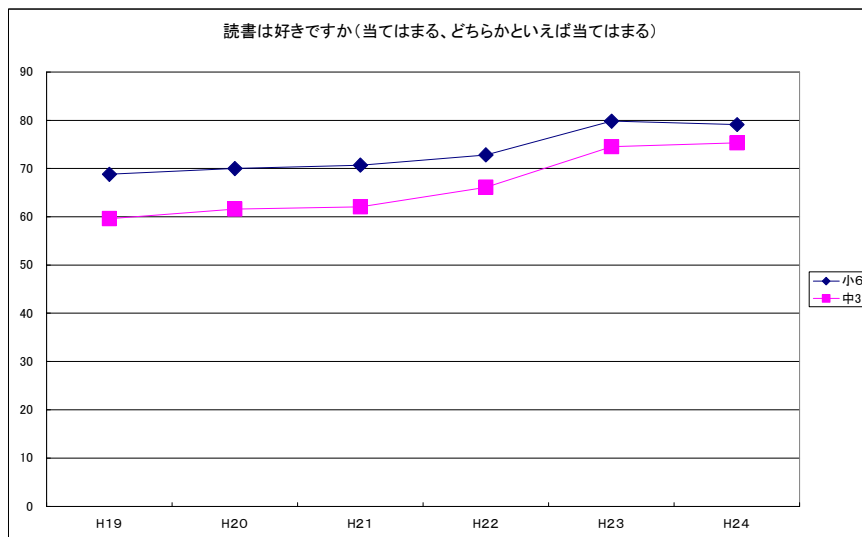


凡例: ■ 割合 % ◆—◆ 平均正答率

1 4 読書が好きですか。



【6年間の変化】

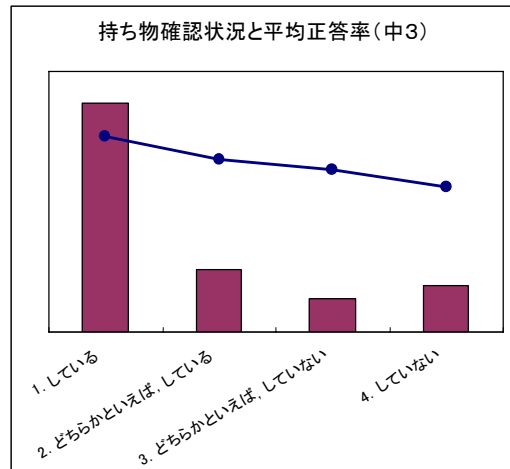
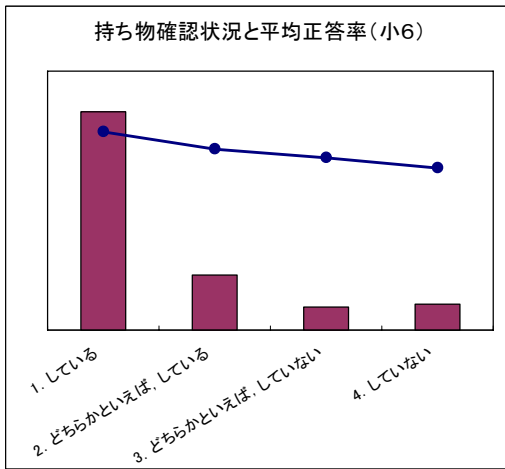


読書が好きな児童生徒の割合は、平成19年度から継続的に増加傾向にある。

最後まで、解答を書こうとする児童生徒ほど平均正答率が高い。
 算数の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 授業中、先生や友だちの話をしっかり聞く児童生徒ほど平均正答率が高い。
 読書が好きな児童生徒ほど平均正答率が高い。
 上記のほかにも「算数(数学)の授業で問題の解き方が分かるようにノートなどに書く」児童生徒ほど平均正答率が高い。

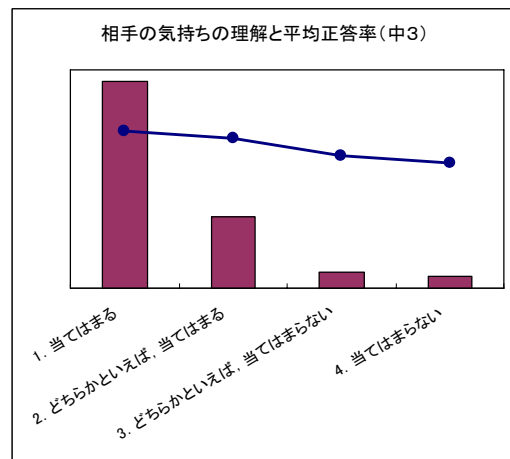
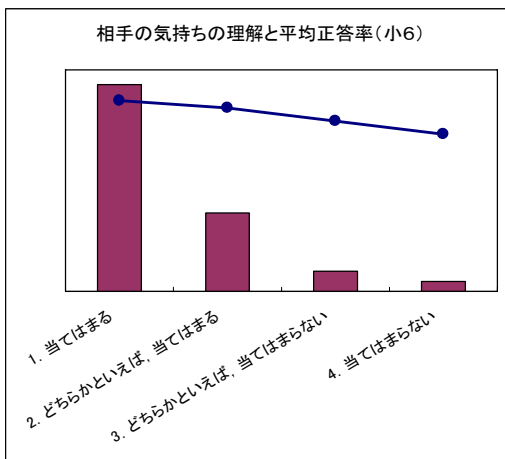
自分自身に関する項目（規範意識・自己肯定感・将来展望等）

1 5 学校に持って行くものを前日かその日の朝に確かめている。



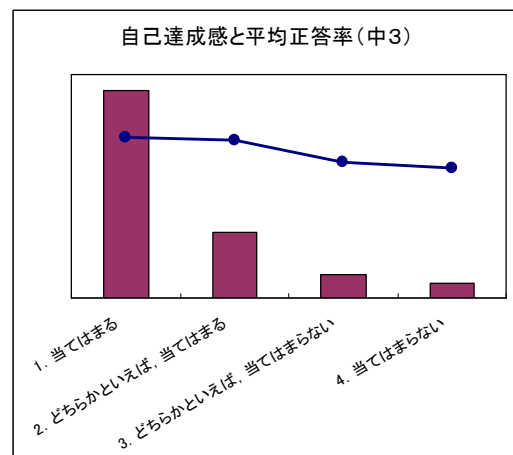
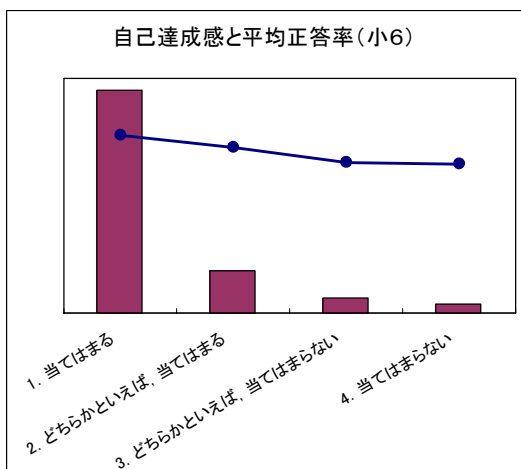
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

1 6 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。



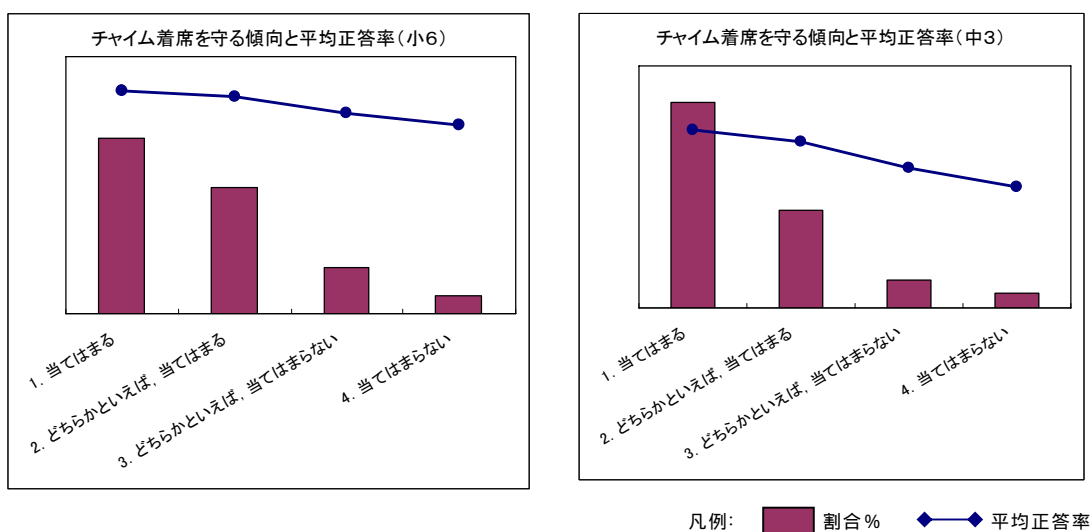
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

1 7 物事を最後までやりとげてうれしかったことがある。



凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

18 チャイムが鳴ったら席につくようにしている。



事前に学習準備ができる児童生徒ほど平均正答率が高い。
 人の気持ちを分かる人間になりたいと思う児童生徒ほど平均正答率が高い。
 達成感を感じたことがある児童生徒ほど平均正答率が高い。
 チャイムが鳴ったら席につくようにしている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 上記のほかにも「自分にはよいところがあると思う」児童生徒ほど平均正答率が高い。

大阪府学力・学習状況調査分析による傾向と対策

教科の平均正答率は、出題される年度の問題の難易度により上下するうえ、平成 23・24 年度は大阪府独自の調査であるため、単純に成果・課題として捉えることには注意が必要である。これに対し、「児童生徒質問紙調査」は調査対象が毎年変わるとはいえ、本市の全児童生徒が感じている傾向を示すものとしては大いに参考とすべきものとする。この理由から、本市では本調査対象の小 6・中 3 に限らず、小中学校全学年を対象とした「学習状況等調査・保護者調査」を平成 21 年度から実施してきた。今年度も 1 月頃の実施を予定している。

今回の調査結果を分析すると、中学校では新学習指導要領が全面実施され、その趣旨を踏まえた「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導」や「言語活動の充実を図る指導」が実践され、生徒にとって「分かる授業」づくりの進んでいることがわかる。また、生徒アンケートによると、授業に対する意識も概ね肯定的である。また、学校アンケートからは授業規律の取組みを積極的に行っている学校が増え、生徒アンケートからはチャイム着席をする生徒、私語を慎む生徒等が昨年度の調査よりも増えている。学校の地道な取組みが生徒の意欲や意識の向上に少しずつ表れてきたといえる。

小学校では、児童に「将来就きたい仕事や夢について考えさせる学習」を積極的に行う学校が増え、児童アンケートを見ると、将来の夢や目標を持っている児童の割合も増えている。今後は、一人ひとりが将来の「夢や目標」に向かっていくための力として、日常的な学習に意義が見出せるような指導・助言が求められる。

このように、各学校での取組みが子どもたちの意識に変化をもたらし、学習習慣や生活習慣の向上につながっていることは成果であるといえる。しかし、今回の調査結果から明らかのように、平均正答率の向上には未だつながっていないのが現状である。子どもたちの「学ぶ意欲」を確かな学力の定着へとつなぐ授業づくりとともに家庭との連携をより一層強め、学校と家庭とが同じ方向を向きながら学力の向上のためにそれぞれの役割を果たしていくことが求められる。本調査結果分析を受けて、一つ一つの課題に真摯に向き合い、より具体的に積極的な取組みをさらに推進させていきたい。

< 子どもの学力面・生活面での重点化事項（方向性） >

- ・新学習指導要領の重点項目である基礎基本とそれを活用する力のバランスがとれた指導
- ・ICT 機器をより多様な場面、形態で活用し学習意欲を向上させる工夫
- ・個の習熟度に応じた指導の充実
- ・「学び」の観点からの幼小中高のより一層の連携
- ・将来の夢や目標を発達段階に応じて考え続けるキャリア教育
- ・学校と家庭が連携した読書習慣の定着【学校での朝読・家庭での家読（うちどく）】
- ・家庭学習習慣の定着のための児童生徒への指導、保護者との連携など、よりきめ細かく継続的な指導
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の確立と継続
- ・きまりや規則を守る規範意識の向上

- ・「やってまっせ！東大阪の学力向上！」
< 学力向上対策学校支援事業 説明用リーフレット >
- ・「子どもの生活リズム向上に向けて」
< 基本的な生活習慣の確立 呼びかけリーフレット >



求められる「生きる力」とは、

平成 20 年 3 月、新しい幼稚園教育要領、小中学校学習指導要領、平成 21 年 3 月には高等学校学習指導要領が告示され、平成 21 年度からこの新教育課程に示された教育課程を軸に、段階的に新たな実践が行われています。しかし、その確たる理念は教育基本法に基づく「生きる力」であり、その主な 3 要素としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成をめざすことは前回から引き継がれました。

< 新しい教育基本法 >

第 1 条（教育の目的）

「人格の完成」「国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成」など

第 2 条（教育の目標）

「豊かな情操と道徳心」「自律の精神」「職業・生活との関連の重視」「公共の精神」など

第 10～13 条（家庭教育、幼児期の教育、学校・家庭・地域の連携協力）

- ・教育は学校だけで行われるものではありません。家庭はすべての教育の出発点であり、地域社会の果たす役割も重要です。また、幼児期の教育や社会教育を振興していくことが大切です。
- ・学校・家庭・地域の三者が、それぞれの役割と責任を自覚し、お互いに協力し合うことが求められています。

< 新しい学習指導要領（教育要領）等の基本的な考え方 >

1. 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成すること。
2. 「確かな学力」の要素となる、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく行うこと。
3. 道徳教育や体育などの充実による「豊かな心」と「健やかな身体」を育成すること。

【参 考】

- ・文部科学省ホームページ「新しい学習指導要領」

アドレス http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/index.htm



東大阪市が実施している取組み

二期制

本市は平成 17 年度より小中学校において二期制を実施しています。二期制により授業時数の増加や、長期休業中を活かした学習補充の実施、各学校における授業研究会などが増えてきています。

学力向上対策学校支援事業

平成 20 年度よりスタートし、平成 21 年度に大幅に拡充された事業です。全小中学校に学力向上支援コーディネーターを位置づけ、個々の学校においては学力向上を目的とした推進役として、また東大阪市全体では他校との連携役として、組織的な改革による学力向上をめざしています。そのために、各校には学力向上支援室を設置したり、学力向上支援専門嘱託や外部支援員を配置しています。

オンリーワンスクール推進事業

幼稚園・小・中・高等学校における教育改革の進展を図り、特色ある学校園づくり及び教育効果を循環させるしくみづくりを目的として行われる事業で、毎年度、各学校園が取組みを発表することにより、市全体の教育活動が活性化されています。

外国語教育・国際理解教育の推進

外国語指導講師（ALT）を全学校園に週 1 回以上配置し、コミュニケーション能力の育成とともに、小学校外国語活動・中学校英語教育及び国際理解教育の充実を図っています。

「朝の読書」活動

児童生徒が朝に登校し、1 時間目の授業までの 10 分間程度を利用して小中学校で実施しています。基本的に朝の読書で使用する本は児童生徒が自分で持ってきます。読書の冊数が年間 1 人 100 冊程度に達することもあります。

校種間連携の取組み

中学校区において幼・小・中・高連携のもと「めざす子ども像」と教育課題の共有を図り、授業づくりと指導の系統化に取り組み、中学校区での公開発表を実施しています。

全学校園に学校協議会を設置

平成 20 年度より全学校園に設置しました。委員の方々は校長より委嘱され、校長の求めに応じて学校園の諸課題や学校園運営全般について協議会としての意見や提言を取りまとめます。校長はそれらをもとに学校園運営の改善に取り組みます。

地域教育協議会の取組みの推進

全中学校区に設置され、学校と家庭と地域の連携による総合的な教育力の再構築をめざす教育コミュニティづくりの中核となる推進組織です。「学校支援」を目的とした地域や家庭への意識啓発や家庭教育の支援、子どもの諸活動や健全育成の取組みに係る企画・実施、連絡調整（コーディネーター）などの活動を行います。

愛ガード運動推進事業

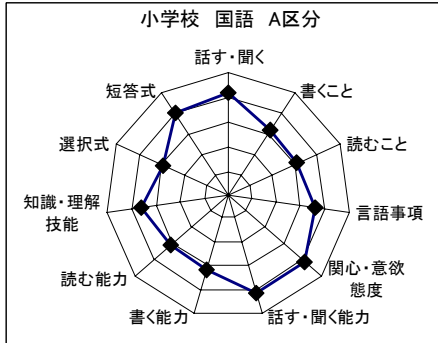
全小学校区における自治会組織が中心となり、子どもの登下校時の安全を守るため、小学校周辺で実施するボランティア活動です。小学校校区を通り登校する中学生への声かけや、学校園への情報提供も行っています。

A区分問題（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、
 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが
 望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

漢字の読み書きに成果！ローマ字を書くのは苦手・・・

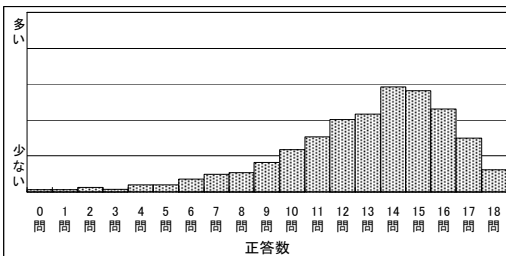


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 今回の出題内容において、「話すこと・聞くこと」で高い値を示している。
- 「書くこと」「書く能力」が低い値となっている。特に、文の構成や表現を確かめ、正しく推敲する力を問う設問での正答率が低い。
- 設問中、最も多くの数を占める「言語事項」のうち、漢字の読み書きに関する設問では、比較的高い正答率となり府の平均を越えるものもあった。しかし、ローマ字を書く設問では、約半数の児童は正しく書くことができず、学習した内容を定着させるための反復練習が必要である。

正答数分布

正答数は右よりの山型



- 正答数14問（全18問）を頂点とした山形を描いている。
- 14問以上正答した児童は5割以上。

全体の傾向

- 平均正答率は71.5%（昨年度より15.2ポイント下降）
- 無答率 東大阪市：4.2%（昨年1.4%）
大阪府：3.4%（昨年1.3%）
- 昨年度に比べ、問題の難易度が上がり、府市とも正答率が下降している。

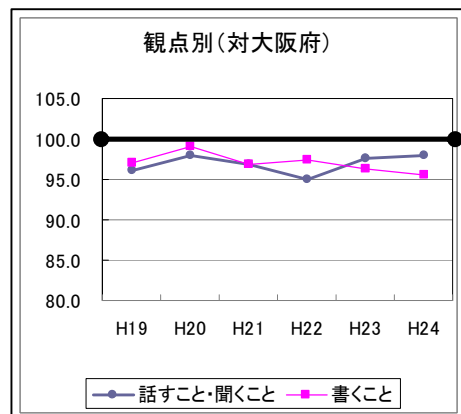
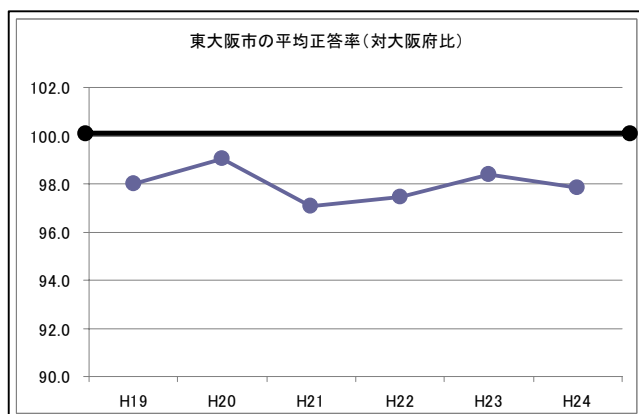
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

「話すこと・聞くこと」で上昇、
 「書くこと」は継続的課題

- 平均正答率の対大阪府比は、97.8ポイントで昨年度より、0.6ポイント下降した。



- 観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」では、昨年に続き対大阪府比で上昇している。各学校で様々な言語活動が工夫されたことが成果につながっている。
- 「書くこと」については継続的な課題であり、国語の授業だけでなく、すべての教科での「書く力」の育成が求められる。

A 区分問題（主として「知識」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

漢字の読み書きは概ね定着しているが、同音異義の漢字など多様な使い方の定着に課題がある。文章の内容を適切に押さえながら読む力に課題がある。

☆基礎基本の確実な定着を！ ☆内容を適切にとらえる力を！

設問から見てくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案

問題例 同音異義の漢字

次の文中のカタカナで書かれた部分と同じ漢字を使うものを、1から4の中から一つ選んで答えましょう。

（前略）バスケットボールに**カン心**のある人は、ぜひ体育館に見学に来て下さい。

- 1 外国と友好**カン**係を結ぶ。
- 2 卒業式に**カン**謝の言葉をおくった。
- 3 新しい校舎が**カン**成した。
- 4 植物の**カン**察日記をつける。

正答 1（関）

- 平均正答率は、市26.0% 府30.8%
- 府も市も設問中最低

学校で取り組むこと

- 学習した漢字の読み書きを定着させるための反復学習を授業や家庭学習などで効果的に取り入れる。
- 学習した漢字を使うことを積極的に評価するとともに、辞書等を活用できるようにする。

家庭にお願いしたいこと

- ◆いろいろな本や新聞などを読む機会を増やす。
- ◆手紙や日記などを書くときにはできるだけ学習した漢字を使うように意識させる。

提案

問題例 次の文章の題名として、もっともふさわしいものを、次の1から4の中から一つ選んで答えましょう。

昔の日本では、布はなかなか手に入りませんでした。そのため、大切な布を少しでも長く使えるようにそめ方の工夫をしました。「あい」という植物を使って、布を青く染める「あいぞめ」もその一つです。「あいぞめ」は、単に布に色をつけるだけでなく、布をじょうぶにし、何度もそめるとせんとくに強い布を作ることができます。

また、「あい」は、昔から病気にきく薬としての効果があるといわれています。

このように、「あいぞめ」は、色を楽しむだけでなく、大切な布を長く使い、ひふを守るなど、生活に役立つ工夫として長く伝えられてきたのです。

- 1 「あいぞめ」の効果
 - 2 「あいぞめ」の仕方
 - 3 「あいぞめ」の産地
 - 4 「あいぞめ」の種類
- 正答 1
- 平均正答率は、市80.7% 府84.2%
 - 平均正答率が8割を超える問題の中で、その差が最も大きい。

学校で取り組むこと

- 小見出しをつけたり、構成図にまとめるなど、段落やまとまりごとにどんなことが書いてあるのか、また段落と段落の結びつきを整理できるような学習を工夫する。

家庭にお願いしたいこと

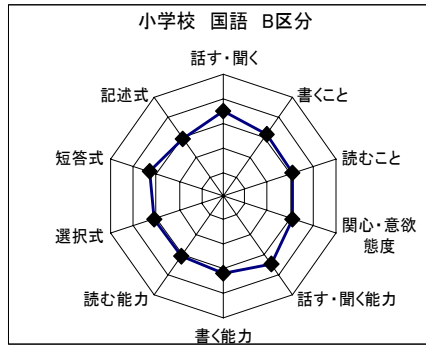
- ◆家族と一緒に読書をする時間などをつくり、いろいろな本に出会う機会を増やす。
- ◆本を読んで感じたことや分かったことなどを話し合う時間をつくる。

B 区分問題（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

「話すこと・聞くこと」は良好！理由を説明するのは苦手・・・

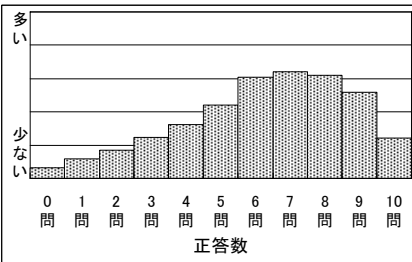


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 今回の出題内容においては「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」の項目が、他の項目に比べ良好な値を示している。
- A区分同様「読むこと」の値が最も低い値となっている。特に、与えられた条件を関連づけて読み、その情報から理由を明確にして説明する設問での正答率が低い。
- 記述式の設問は、短答式・選択式の設問に比べ低い値となっているが、設問によって正答率に大きな開きがある。

正答数分布

右よりのなだらかな山型



- 正答数7問（全10問）を頂点として右よりの山型を描いている。
- 5割以上の児童が7問以上正答している。

全体の傾向

- 平均正答率は62.3%
(昨年度より1.2ポイント上昇)
- 無答率 東大阪市：4.2%（昨年5.0%）
大阪府：3.3%（昨年4.3%）
- 全体の傾向は大阪府とほぼ同じ

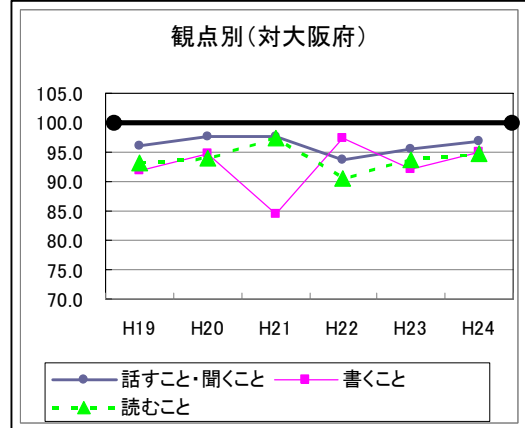
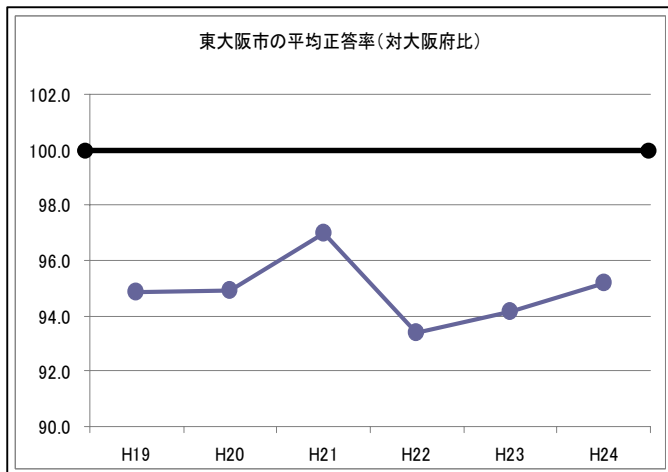
5年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

昨年に引き続き、対大阪府比が上昇

- 活用力については、課題は継続しているものの、昨年に引き続き、対大阪府比は上昇し、本年度は、95.2ポイントである。



- 観点別に見ると、すべての領域で昨年よりも上昇している。A問題同様「話すこと・聞くこと」は2年連続の上昇となっている。
- 「読むこと」「書くこと」も昨年に比べ上昇しているが、設問によって正答率に差があり、理由を明確にして書いたり、要点をとらえたりする力に課題がある。

B 区分問題（主として「活用」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

目的や条件に応じて書く力に課題がある。
 複数のテキストを関連付けて読み、理由を明確にして書く力に課題がある。

☆言語活動のさらなる充実と学年間の系統立てた学習を！

設問から見てくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

提案

問題例 Aに当てはまる小見出しを書きましょう。

A

ハスとは？

ハスの葉が、池一面をおおっていました。葉は、かさを広げたくらいの大きさで、びっくりしました。資料館で実物大の花の写真を見ました。ハスの花の大きさはスイカくらいあって、おどろきました。

花は6月末から7月はじめごろ、早朝に開き、昼すぎには閉じる。白やピンクの花は30センチほどの大きさ。葉は円形で直径50センチほど。

理科図鑑より

- 平均正答率
市60.1%
府63.8%
- 正答率が6割を超える設問の中で、府との差が最も大きい。

正答例：「とても大きいハスの葉と花」
 「ハスの大きさにびっくり」

学校で取り組むこと

- 目的に応じて、伝えなければならない内容や、読む人が知りたいと思う内容を整理しながら書く活動を効果的に行う。

家庭にお願いしたいこと

- ◆新聞や雑誌、広告などの表現に注目して、その表現の仕方や効果について話し合う機会をつくる。

提案

問題例

青山さんは、読書感想文をコンクールに出そうと思います。1から3のうち青山さんが応募できるのはどれですか。一つ選んでその理由を「青山さんについて」とコンクールの内容にふれながら、「理由は、」に続けて書きましょう。

3

なにわ新聞 夏休み読書感想文コンクール

- 応募資格
小学5年生以上ならどなたでも
- 対象図書
課題図書部門：「雨上がりのベンチ」
自由図書部門：自由に選んだ図書
- 応募条件
・400字の原稿用紙3枚以上
- 応募しめきり
平成24年9月15日までに郵送でお送りください。

2

作品募集 読書感想文全国コンクール

- 応募資格
小学校5、6年生
- 対象図書
「子ども電車」「天風の吹くとき」「クジラと海とぼく」
- 応募条件
・原稿用紙に書いてください。
・文字数は1,000字以内です。
- 応募しめきり
平成24年7月20日まで

1

大阪小学生作文コンクール

- 部門
感想文部門・作文部門
- 応募資格
大阪府に住んでいる小学生
- 応募条件
感想文部門：自由に選んだ図書についての感想文
作文部門：学校じまんについての作文
- 応募しめきり
平成24年6月10日

【青山さんについて】
 ・大阪に住んでいる ・小学6年生
 ・平成24年6月11日に読書感想文を書いた
 ・読書感想文のテーマ「『クジラと海とぼく』を読んで」
 ・400字の原稿用紙2枚に書いた

- 平均正答率
市36.6%
府41.3%

正答の条件 「2」を選んでいる。
 選んだ理由を【青山さんについて】とコンクールの内容にふれながら書いている。
 「理由は、」に続くように書いている。

- 全体のうち41.4%が「2」を選んでいるが、理由を的確に書けていない。情報の読み取りはできるが、関連付けながら条件に合わせて書く力に課題がある。

学校で取り組むこと

- 辞典や新聞、ポスターなど多様な表現のテキストを効果的に取り入れながら、必要な情報を取り出す学習を行う。
- 意見文を書いたり、物語の感想などを書く活動の中で、そのように考えた理由（根拠）を明確にして書くことができるように活動内容を工夫する。

家庭にお願いしたいこと

- ◆商品の特征や値段、旅行先の情報や交通手段など、生活の中で必要な情報を必要に応じて自分で取り出し、判断できるような機会を増やす。
- ◆子どもたちとの会話の中で、なぜそう思うのかなど考えの理由を話せる機会を増やす。

小学校 算数

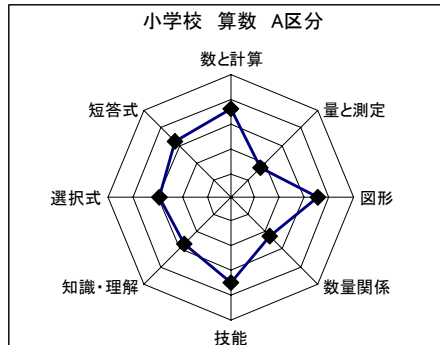
平成24年度 大阪府学力・学習状況調査 概要報告

A区分問題（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

「数と計算」は良好。「量と測定」「数量関係」に課題

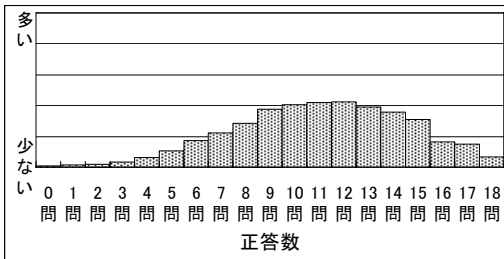


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「数と計算」領域では、計算の技能は定着しているが、四則の混合した計算や小数の意味理解にやや課題がある。
- 「量と測定」領域では、分度器を使った角度の測定、三角形の面積の理解、単位量あたりの大きさの理解に課題がある。
- 「図形」領域では、合同や直方体についてほぼ理解できている。
- 「数量関係」領域では、円グラフを百分率と関連付けて読み取ることに課題がある。

正答数分布

昨年度と同じく低い山型。



- 正答数12問（全18問）を頂点としたやや右よりの低い山形を描いている。

全体の傾向

- 平均正答率は61.4%（昨年度より2ポイント上昇）
- 無答率 東大阪市:2.8%(昨年3.6%)
大阪府:1.9%(昨年2.9%)
- 府も市も昨年度に比べて平均正答率が上昇

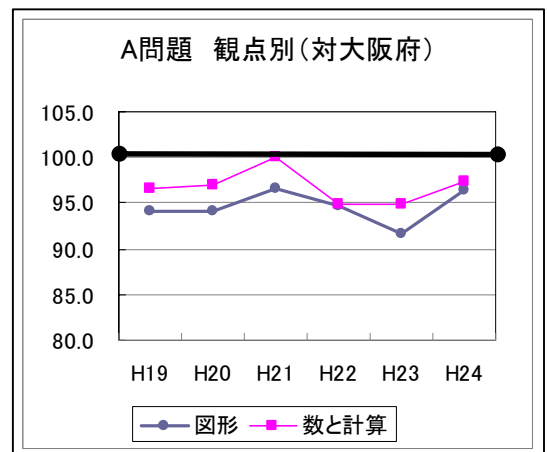
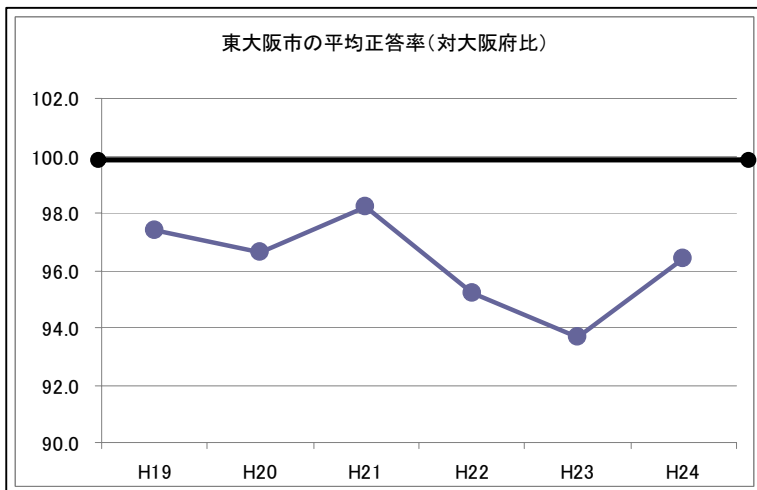
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

昨年度よりも上昇

- 対大阪府比は昨年度より2.7ポイント上昇。基礎基本の確実な定着に向けて、引き続き取り組む必要がある。



- 領域別にみると、「数と計算」と「図形」領域が上昇傾向にある。指導方法の工夫や反復学習の成果であると推測される。

A区分問題(主として「知識」に関する問題)にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

割合の意味や求め方の理解に課題がある。
 小数の意味理解に課題がある。

☆なぜそうなるのか、意味を理解するための指導の工夫を！

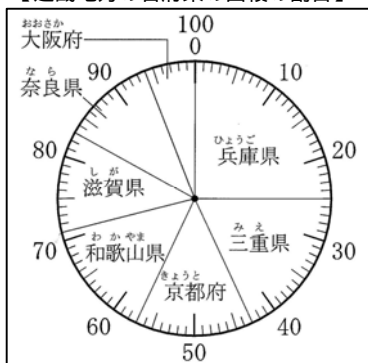
設問から見てくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案

問題例

【近畿地方の各府県の面積の割合】



近畿地方の全体の面積 約33000km²
 国土交通省 国土地理院HPによる

問：大阪府の面積は何km²になりますか。面積を求める式を書きましょう。ただし、答えを計算する必要はありません。

正答： $33000 \times \frac{6}{100}$

- 平均正答率は、市 17.2% 府20.6%
- 割合の意味や求め方の理解に課題がある。

学校で取り組むこと

- 「AはBの何倍」という考え方(倍概念)は低学年から割合の素地の学習として位置づけられている。よって学年に応じ、2つの数量の関係をことばや数、式、図、表、グラフを用いて考え、説明する算数的活動を繰り返し行う。
- 資料を数量的に考察する場合、割合はどう使われるのかを意識させながら、割合・百分率の意味や求め方について十分理解を図る。

家庭にお願いしたいこと

- ◆食品の成分表など日常生活の中で百分率が用いられている事象を見つけ、算数と生活の結びつきを感じさせる。
- ◆家庭学習では式と答えだけでなく、理由も考えながら取り組むようにする。

提案

問題例

次の計算をしましょう。

20-2.1

正答 17.9

- 平均正答率は、市 63.4% 府 71.5%
- 小数のしくみの意味理解に課題がある。1.79 18.9 0.1などの誤答が見られた。20-2.1は、20.0-2.1として小数点の位置をそろえ計算しなければならない。また、答えを求めた後、概算で計算結果の誤りに気づく力も必要である。

学校で取り組むこと

- 位取り記数法の考えを1より小さい数まで拡張し、小数の意味と表し方を理解させる。
- 小数の計算方法をそのまま覚えるのではなく、小数の仕組みの上に乗って計算の意味を理解させ、習熟を図る。

家庭にお願いしたいこと

- ◆身の回りにある小数で表記されたものに目を向け、興味を持たせる。
- ◆「27円と39円の2つの品物は、100円あれば買えるな。」とか、「20gから2.1g引くと18gくらいかな。」など数をおおまかに見て答えを予想する見積り力の力をつける。

小学校 算数

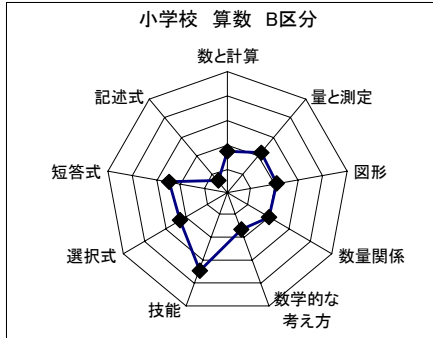
平成24年度 大阪府学力・学習状況調査 概要報告

B 区分問題 (主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

論理的に考え、表現する力に課題



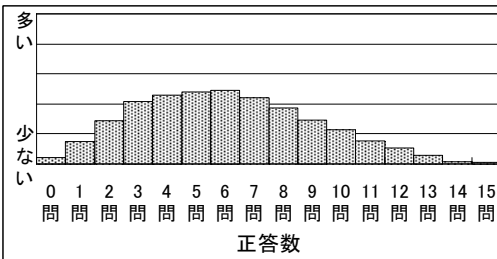
一番外の枠は、10割の正答率ライン

●資料を読み取って棒グラフをかくことや図形の性質を用いて数量を求めること(技能)は概ね良好であるが、今までの知識を使って論理的に考えたり自分の言葉で表現すること(数学的な考え方)に課題がある。

●割合の変化の様子について言葉と式で理由を説明する設問は、府と同様、正答率が最も低かった。

正答数分布

昨年度と同じく左よりの山型



●正答数6問(全15問)を頂点としたやや左よりの山形を描いている。

全体の傾向

- 平均正答率は、40.3% (昨年度より7.7ポイント下降)
- 無答率 東大阪市:5.0%(昨年3.7%)
大阪府:3.9%(昨年3.0%)
- 難易度が上がり、府も市も平均正答率は下降。

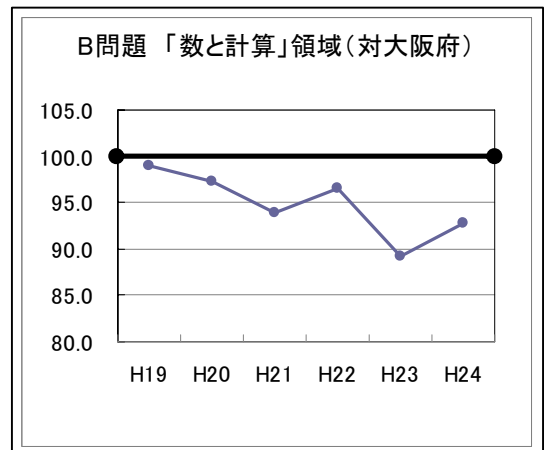
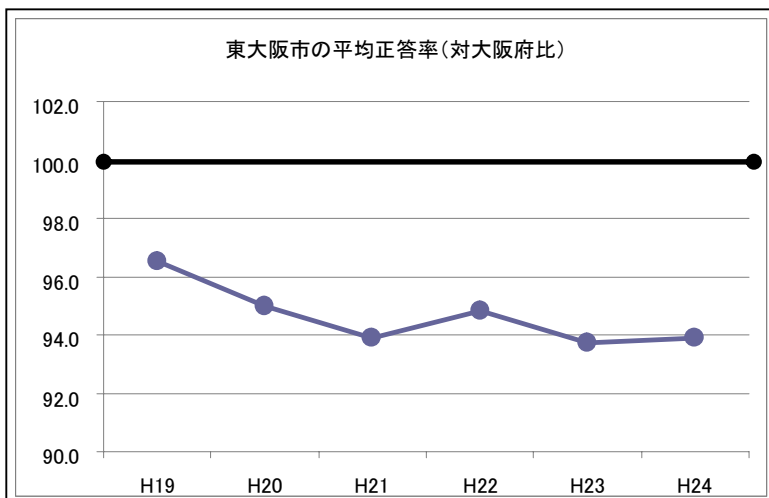
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

(H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

依然 活用力には課題

●昨年度に比べ、対大阪府比は0.1ポイント上昇。6年間では、94ポイント前後で推移しており、府との差は拡大傾向にある。



●領域別を見ると、「数と計算」領域では知識や技能を活用する力が、昨年と比べ3.7ポイント上昇した。

B区分問題(主として「活用」に関する問題)にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

グラフから割合の変化の様子を読み取ることに課題がある。
図形を多面的に見る力に課題がある。

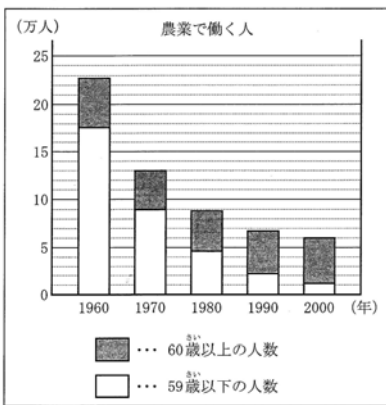
☆筋道を立てて考え、伝え合う学習を!

設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

提案

問題例



グラフを見て「農業で働く人の総数」に対する「60歳以上の人数の割合の変化」について、ひろしさんの言っていることは「正しい」か「正しくない」かを選び、その理由を書く。

正答例: 「正しくない」

理由: 農業で働く人の総数は減少しているが60歳以上の人数はあまり変化していない。60歳以上の人数の割合は、(60歳以上の人数)÷(農業で働く人の総数)で求められる。よって割合は増加している。

●大阪府の平均正答率9.0% 東大阪市の平均正答率7.1%

●総量に変化している棒グラフを割合の観点で捉え式と言葉で説明することに課題がある。

農業で働いている60歳以上の人数の割合はほとんど変わっていないね



学校で取り組むこと

●目的に応じて資料を分類整理し、棒グラフや折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、複数のグラフを組み合わせたものを用いて表したり特徴を調べたりするなど、児童が主体的に表やグラフを活用する場面を設定する。

●根拠を言葉で説明したり、ノートに記述したりする言語活動を充実させる。

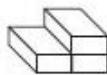
家庭にお願いしたいこと

◆表やグラフは社会の出来事を客観的に捉えたり将来を予測したりすることに役立つことを知り、身の回りの統計や資料にふれる機会を増やす。

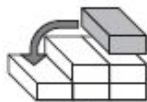
提案

問題例

縦16cm、横8cm、高さ4cmの積み木を図1から図2、図3と積み上げました。



問: 下の図のように、色のついた積み木を移動させて直方体を作ります。できあがった直方体の縦・横・高さを求めましょう。



正答 たて16cm 横24cm 高さ8cm

●平均正答率は、府63.1% 市57.5%

●設問中、府平均正答率との最も差が大きい。豊かな図形感覚や直観力、論理的な思考力が必要とされる。

学校で取り組むこと

●紙を折ったり切ったり、図形を移動・合成分解したり、定規やコンパスで作図したりする体験的な活動や、コンピュータを使った活動を組み合わせ、図形についての多様な見方や感覚を豊かにする。

●図形の意味を理解したり性質を見いだしたりする過程で論理的に考える力や表現する力を育てる。

●考える楽しさを味わわせる。

家庭にお願いしたいこと

◆生活や遊びの中で箱や折り紙などに触れさせ、新しい考えや工夫する態度をほめる。

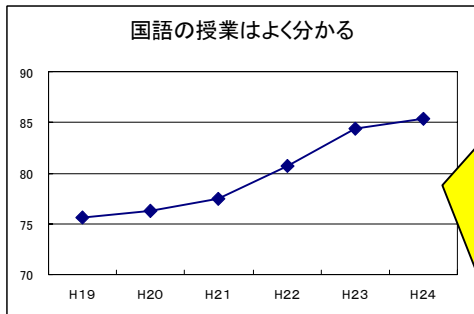
◆身近にある様々な立体の大きさや形について予想したり、計測したりするなど図形感覚の豊かさにつながる体験を増やす。

児童質問紙調査（教科に関する項目）

児童に対して行った質問紙調査より

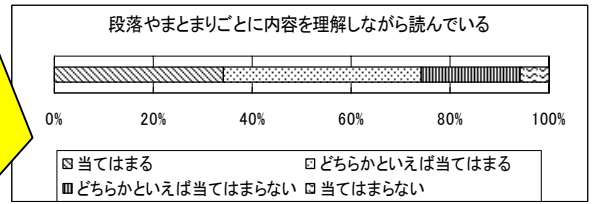
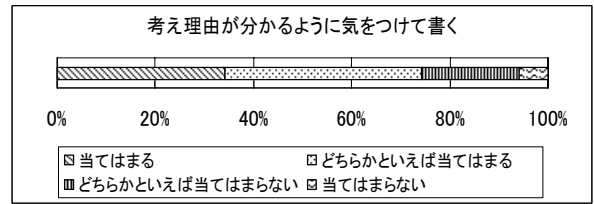
「国語」への意識

授業に対する意欲・姿勢は明らかに向上



●「国語の授業はよく分かる」と答えた児童の割合は、年々上昇し、本年度は、85.4%で大阪府の平均を上回っている。

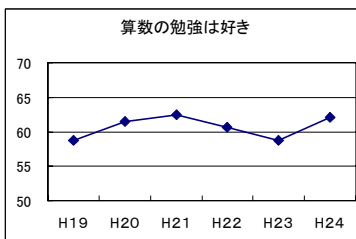
国語の授業に対するすべての質問で、肯定的な答えが大阪府の平均を超えている。学習意欲を力の定着につなぐ授業を！



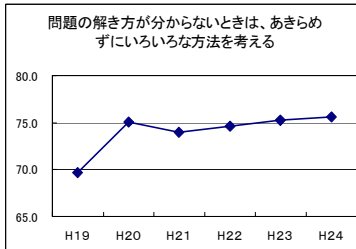
●国語の授業で「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」に肯定的に答えた児童の割合は7割を超え、大阪府の平均も越えている。

「算数」への意識

「算数が好き」「あきらめずに考える」という前向きな気持ちが向上

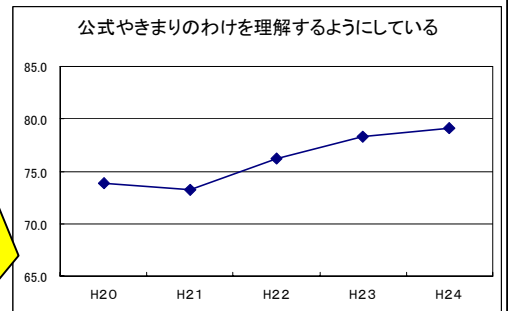


●「算数の勉強が好き」と答えた子どもは昨年より大幅に増えている。



●「問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法で考える」と答えた子どもは、少しずつ増えている。

学習意欲が向上！『じっくり考え、学び合う授業づくり』をさらに充実させ、算数の価値や学ぶ意義を感じさせる。



●「公式やきまりのわけを理解するようにしている」と答えた子どもは、年々増えている。
(H19調査には本項目はなし)

**学び合う喜びと達成感を！
家庭での反復学習が大きな力に！**

学校で取り組むこと

- 児童主体の授業展開やICT活用で学習意欲を喚起する。
- 一人ひとりの学習状況进行评估し、指導形態を工夫するなど個に応じたきめ細かな指導を行う。
- 友だちと学び合いわかる喜びや達成感を味わえる授業を行う。
- 日々の授業と家庭学習を連動させ、学力の定着を図る。
- すべての教科で言語活動の充実をさらに図る。

家庭にお願いしたいこと

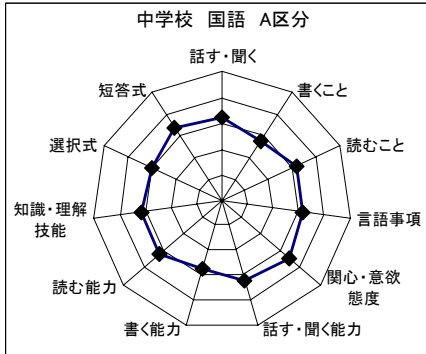
- 規則正しい生活と落ち着いて学習に取り組める環境を整え、家庭学習の習慣が身につくようにする。
- 子どもとのコミュニケーションを大切にする。
- 子どもの良いところや努力しようとする態度を大いにほめ、やる気を育てる。
- 将来の夢や希望について語り合い、その中で国語算数が役立っている例を伝える。

A区分問題（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

「関心・意欲・態度」は高い 「書くこと」「書く能力」に課題

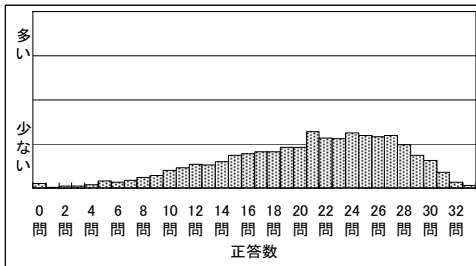


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 自由記述の解答などから、関心・意欲・態度の高さがみられる。
- 「書くこと」「書く能力」に課題がみられる。
- 漢字の読みを答える問題では、正答率が高い（90%）が、適切な漢字を選択する問題では正答率が低く（58%）なる。漢字を書く問題では、正答率がさらに低く（48%）なる。

正答数分布

右よりの凹凸のある山型。



- 正答数21問が最も多い頂点に凹凸のある山型となっている。（全33問）

全体の傾向

- 平均正答率は62.3%（昨年度より5.2ポイント下降）
- 無答率 東大阪市：6.2%（昨年4.1%）
大阪府：5.3%（昨年4.0%）
- 府も市も昨年度に比べ正答率は下降。

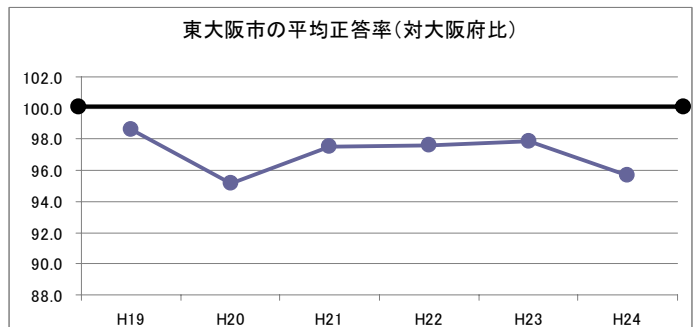
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

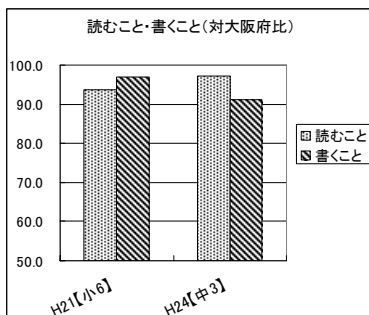
上昇傾向にかげり・・・

- 市平均正答率の対大阪府比は95.7ポイントであった。
- 平成20年度から23年度まで上昇していたが、今年度は前年度より2.1ポイントの下降となった。



現中学3年生の小学6年生時との変化

現中学3年生は、3年前の小学6年生で第3回全国学力・学習状況調査を受けた生徒たちである。但し、小6時の対象数が4601名、中3時の対象数が3998名であり、その差は私立中学校等に進学した児童の数によるところが大きい。



「読む能力」は向上！「書く能力」で下降

- 「読むこと」「読む能力」で対大阪府比が上昇（93.7% 97.2%）
- 全体的に下降傾向が見られたが、特に「書くこと」「書く能力」で対大阪府比が下降（96.9% 91.1%）
- 文章全体の内容を把握する力は確実に付いている。しかし要点を整理し、書き表したり、書くことでわかりやすく人に伝える力に課題がある。

A 区分問題（主として「知識」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

文章全体の要点を整理し、書くことで人にわかりやすく伝える力に課題がある。
 文脈に即して漢字を正しく書いたり、漢字についての基礎的な知識の理解について課題がある。

☆基礎的な言語事項を身につけ、要点を的確に表現する能力の育成を！

設問から見てくる課題と対策

設問の意図と生徒の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案

問題例

石田さんは生徒会書記をしています。生徒会では、昼休みを利用して開催する「なんでもパフォーマンス・ステージ」について話し合いました。石田さんは話し合ったことの【メモ】をもとにして、全校生徒に対して出場者募集を呼びかける【ちらし】を作りました。次の【メモ】と【ちらし】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【ちらし】

なんでもパフォーマンス・ステージ
出場者募集

みだんからいろいろなことががんばっているみなさん、成果を発表！

◆曜日・時間
 毎週水曜日 昼休み（13:00～13:15）

◆場所
 体育館の舞台

◆内容
 体育館の舞台でできるもの
 持ち時間は、1グループあたり5分
 楽しく盛り上げられるもの、感動できるもの（例）歌や演奏、コント、ダンスなど

《注意事項》
 人を傷つける内容であること
 安全な内容であること

◆申し込み方法
 希望を希望する週の2週間前までに申込用紙を生徒会に提出してください。
 申込用紙は []
 みなさん、どしどし申し込んでください！

海山中学校生徒会

【メモ】

昼休みをもっと楽しくするために

がんばっている人が、日ごとの成果をステージで発表。
 1グループ5分以内。
 みんなが楽しいひとときを過ごせる場を作る。

↑

- ・楽しく盛り上げられるものや、感動できるものがある。
- ・危ないこと、人を傷つけることはダメ。
- ・たとえば、歌、演奏、コント、ダンスなど。

タイトルは「なんでもパフォーマンス・ステージ」

流れ
 申込用紙を生徒会に提出。
 ↓
 ・書記が作る。
 ・生徒会室の前に置く。

発表してもらおうかどうか、生徒会で決める。
 決ったら、生徒会こまんの先生に相談。

申し込みがないとき、他の行事があるとき、
 → 開催しない。

◆毎週水曜日 昼休み 13時から 15分間
 場所：体育館（舞台で発表）

学校で取り組むこと

- 文章全体の主題を把握し、要点を整理し、まとめる学習活動を行う。
- 文章の要点を書き表すときに、人にわかりやすく伝える工夫をする。

家庭にお願いしたいこと

- ◆要点や自分の思いを文章に書き表したり、手紙等書くことで人に伝える能力を養えるような機会を意識して持つようにする。

問：【ちらし】の [] に入る言葉を【メモ】をもとにして答えなさい。

正答例：（申込用紙は）生徒会室の前にあります。

- 「書くこと」の設問の中で40.3%ともっとも正答率が低い。
- 文章全体の要点を整理し、わかりやすく書いて伝える力に課題がある。

提案

問題例

問：- 線部のカタカナを漢字に直し、楷書でいねいに書きなさい。

（前略）このように墨は、昔の人が長い間かかってソウイクフウをして作り上げた芸術品といえるでしょう。

正答：創意工夫

問題例

問：楷書と行書で書かれた「草原」という字を見て、行書の特徴について、和田さんと川上さんと話しています。次の（ア）、（イ）にあてはまる言葉の組み合わせとして、もっとも適切なものを、あとの1から4の中から一つ選びなさい。

【楷書】 草原 【行書】 草原

和田さん：「行書の『草』の漢字は [] の部分に（ア）が見られます。」
 川上さん：「行書の『原』の漢字は [] の部分に（イ）が見られます。」

- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 1 ア 筆順の変化 | イ 点画の連続 | 2 ア 点画の省略 | イ 点画の連続 |
| 3 ア 筆順の変化 | イ 点画の省略 | 4 ア 点画の省略 | イ 筆順の変化 |

- 設問中正答率が低い。
 - 文脈に即して漢字を正しく書いたり、行書の書き方等、漢字についての基礎的な知識の理解について課題がある。
- 正答：1

学校で取り組むこと

- 単漢字や単語の読み取り・書き取りだけでなく、問題例のような四字熟語や同音異義語、言語事項の基礎知識など、言語についての知識・理解・技能が身につけられるような学習活動を行う。

- 書写において、書体の特徴についての理解を図る指導をする。

家庭にお願いしたいこと

- ◆パソコンや携帯電話の普及で、文字を書く機会が極端に減っている日常で、情報端末に頼りすぎないような言葉かけをする。

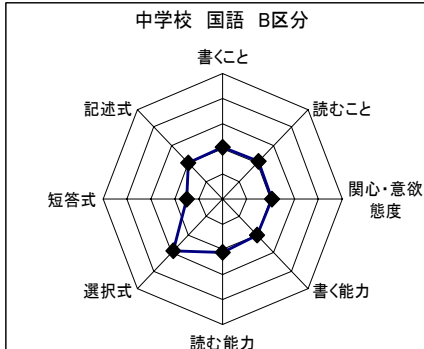
- ◆文字を書くことや、漢字の文化に触れ親しむ機会を増やす。

B 区分問題（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

選択式の問題形式では正答率は比較的高い。短答式では「読む能力」に課題

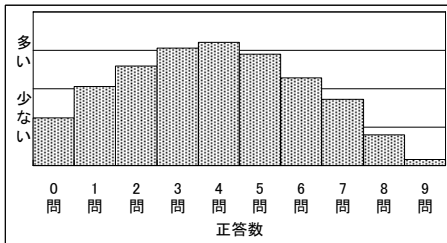


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- A問題に比べると、全体的に正答率は低くなり、大阪府との平均正答率との差も大きくなっている。
- 選択式の問題形式では、他に比べて正答率が高くなり、対大阪府比にも近づいている。
- 短答式の問題形式では、「読む能力」に課題がみられる。

正答数分布

昨年度に比べ、頂点が左側へ移行



- 正答数4問（全9問）を頂点とした山型となっている。

全体の傾向

- 平均正答率は42.9%
（昨年度より7.5ポイント下降）
- 無答率 東大阪市：16.9%（昨年8.2%）
大阪府：13.5%（昨年7.3%）
- 府も市も昨年度に比べ平均正答率は下降

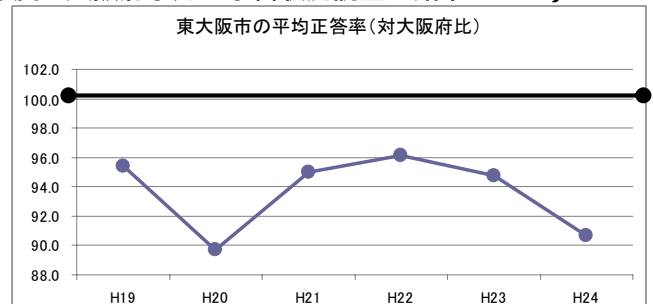
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

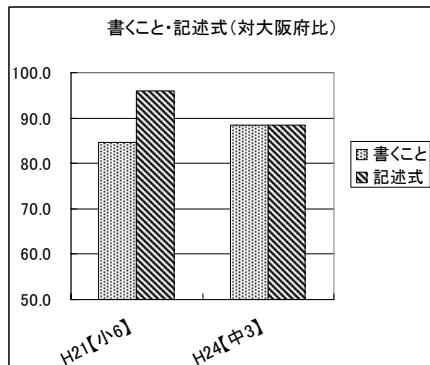
2年連続の下降

- 今年度の対大阪府比は90.7ポイントとなった。
- 対大阪府比が4ポイント下降した。
- 平成20年度以降上昇傾向だったのが、2年連続で下降傾向となっている。



現中学3年生の小学6年生時との変化

現中学3年生は、3年前の小学6年生で第3回全国学力・学習状況調査を受けた生徒たちである。但し、小6時の対象数が4599名、中3時の対象数が4016名であり、その差は私立中学校等に進学した児童の数によるところが大きい。



読み取って、整理する力に課題

- 「書くこと」の対大阪府比は、小学6時で84.5%、中学3年生で88.5%でポイントは増えているが、その数値は依然低く、課題が継続している。
- 文章のある部分の内容を把握し、書く力についてはついてはいるが、複数の関連した文章となると、要点を整理する力に課題がみられる。
- 「記述式」の設問の対大阪府比は、小6時よりも大きく下降している。すべての教科で記述する機会を積極的に取り入れる必要がある。

B 区分問題（主として「活用」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

複数の文章を読み、要点を整理し書き表す力に課題がある。
特に読み取った要点を書く設問で、無答率の高さがめだつ。

☆文章間の関連性を整理し、総合的に読む力の育成を！

設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と生徒の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

提案

問題例

次の大阪で生活する太田さんと石川さんの会話や資料を読んで、あとの問いに答えなさい。

太田 きこのうの国語の授業で、方言と共通語のことを学習したでしょう。他の地方の方言に触れることができ興味深かったです。

石川 私も興味があったので、調べてみると、このような【参考文献】が見つかりました。読んでみてください。

【参考文献】小林隆 「方言が明かす日本語の歴史」による。

太田 なるほど。おもしろいですね。具体的にはどのような言葉があるでしょう。
石川 この図を見てください。これが、「方言圏論」にあてはまる言葉の例です。

太田 なるほど。いろいろな言葉が全国でどんな分布になっているのかを調べるとおもしろいかもかもしれませんね。

石川 そうですね。ただ、最近、私たちも大阪にしながら、さまざまな方言を聞く機会が増えてますよね。テレビ番組でも使われているし、自分たちも使うでしょう。そこで、他の資料も調べてみました。【資料1】【資料2】です。

【資料1】井上史雄 「日本語のウォッチング」による。

【資料2】田中ゆかり 「『方言コスプレ』の時代」による。

問：【参考文献】の「方言圏論」が説明している方言の伝わり方は、【資料1】のどの部分にあてはまりますか。八字以内で抜き出して、答えなさい。ただし、句読点は字数にふくめます。

正答：地理的に伝わる

- 設問中正答率が8.8%ともっとも低い。
- 複数の文章間の関連性を整理する力に課題がある。

学校で取り組むこと

- 文章全体の内容をつかみ、関連のある文章や図などから、主題や要点を整理し、文章表現をする学習活動を行う。
- 場面に応じ、自分の考えや表現する活動を工夫する。

家庭にお願いしたいこと

- ◆小説や随筆、科学的読み物等多様な分野の文章に触れ、興味・関心が持てるような機会を多く持つ。
- ◆文章の中で読み取った内容について意見をかわせるようなコミュニケーションの場を持つ。

学校で取り組むこと

- 複数の関連した文章や新聞記事を用い、多角的な視点から意見や感想を話し合い、文章化するなどの学習活動を行う。
- 授業の中で、比べて読んだり、関連付けて読んだり、多様な読み方の工夫をする。

家庭にお願いしたいこと

- ◆本や新聞、ニュースなどの要点を、人に分かりやすく伝え、意見を交換するようなコミュニケーションの機会を多く持つ。
- ◆日常生活のさまざまな場面で、意見を聞き、整理する機会を多く持つ。

提案

問題例

(提案 より)

問：-線部 の、最近方言を聞く機会が増えた理由を、これまでの二人の会話と【資料1】【資料2】を読み、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 【資料1】、【資料2】の両方にふれて書くこと。

条件2 「メディア」「キャラクター」の両方も文中に使うこと。

条件3 「最近、方言を聞く機会が増えた理由は、」に続けて、六十字以上、八十字以内で書くこと。(解答用紙に書かれている書き出しは字数にふくみます。)

正答例：(最近、方言を聞く機会が増えた理由は、)メディアの力で方言を聞く機会が増えたり、キャラクターを演じたために方言を使う人が出てきたりしたからである。

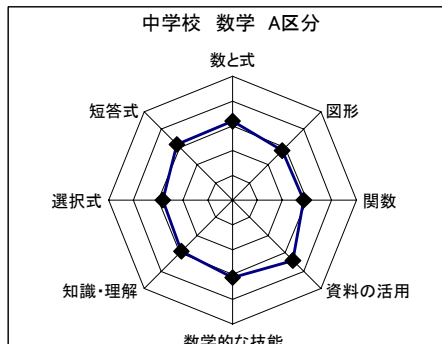
- 設問中無答率が33.7%ともっとも高い。
- 文章間の関連性から要点を、条件にしたがって書く問題となると、無答率が上昇する。

A区分問題 (主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

すべての領域で例年並みも、依然課題が見られる

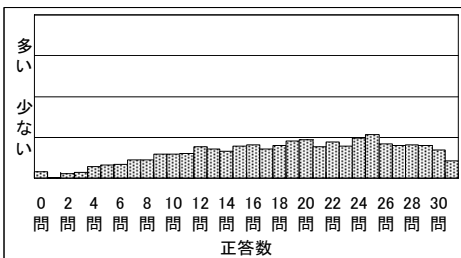


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「数と式」領域では、分数を含む計算、等式の変形、連立二元一次方程式において課題が見られる。
- 図形に関する基礎的な知識の定着は見られるが、それらを活用することにおいて課題が大きい。
- 「関数」領域において、表やグラフの読み取りについては概ね定着している。変域などを伴う問題で苦手意識がある。
- 今年度から設定された「資料の活用」領域では、良好な結果が見られた。

正答数分布

二極化の傾向が拡大しつつある



- 全体的にはなだらかな分布を示している。
- 例年と比較して、0問の分布がめだち、二極化の傾向がある。

全体の傾向

- 平均正答率は60.0% (昨年度より2.3ポイント上昇)
- 無答率 東大阪市: 8.2% (昨年7.7%)
大阪府: 6.4% (昨年6.6%)
- 府で無答率が下がっているのに対し、市での無答率が上昇。正答数分布と合わせ、二極化の傾向がより強くなっている。

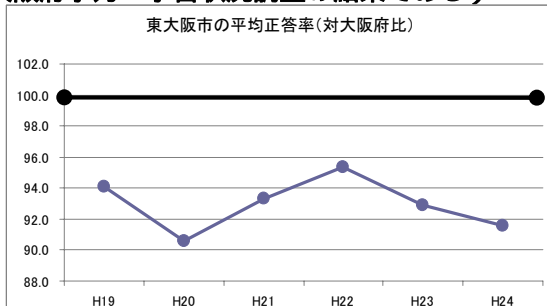
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

(H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

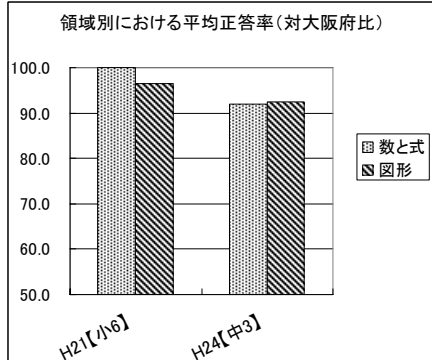
下降傾向が続いている

- 対大阪府比は91.6で、昨年度より1.3ポイント開いた。領域ごとに突出した開きがなく、どの領域においても課題があることがうかがえる。
- 領域別では、今年度より新設の「資料の活用」が最も高い数値を示している。他の領域についてはいずれも例年並みであった。



現中学3年生の小学6年生時との変化

現中学3年生は、3年前の小学6年生で第3回全国学力・学習状況調査を受けた生徒たちである。但し、小6時の対象数が4601名、中3時の対象数が4021名であり、その差は私立中学校等に進学した児童の数によるところが大きい。



小学校の定着を中学校へつなげることに課題

- 平均正答率の対大阪府比は、小6時で98.2ポイントだったが、中3時では91.6ポイントへ大きく落ち込んでいる。
- 領域別では、約8ポイントの減少が見られる領域がある。設問ごとに見ても、平均正答率の対府比100ポイントを超えた問題が、小6時の6/18問から中3時では0/31問であった。
- 小学校で定着した知識をいかして、中学校につなげていくことが求められる。

A区分問題(主として「知識」に関する問題)にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

分数や文字を含む計算での無答率が高い。
図形問題について、学んだことを活用する力が弱い。
関数において、特に変域を含む問題での課題が大きい。

☆これまでに学習したこととつなげて、新しい知識や技能を増やす!

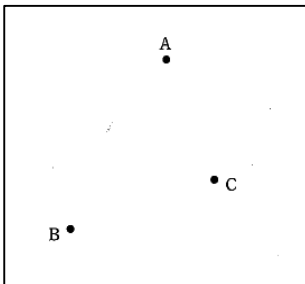
設問から見てくる課題と対策

設問の意図と生徒の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案

問題例

問：下の図の3つの点A,B,Cのどの点からも等しい距離にある点を作図します。ア～エのうち、作図の方法としてほしいものは？



ア. 角BACの二等分線と角BCAの二等分線をかき、その交点を求める。

イ. 角BACの二等分線と線分BCの垂直二等分線をかき、その交点を求める。

ウ. 線分ABの垂直二等分線と角BCAの二等分線をかき、その交点を求める。

エ. 線分ABの垂直二等分線と線分BCの垂直二等分線をかき、その交点を求める。

正答 エ

●平均正答率は府39.7%、市35.0%。
選択問題でありながらも、正答率が低い。

●一つひとつの作図の方法は定着しているが、どのような場面で活用するかということが定着していない。

学校で取り組むこと

- 作図においては技能的な指導にとどまらず、その活用法など具体的な場面での課題を増やすなど数学的な活動の場を増やす。
- これまでに学習したことと、関連付けながら理解を深めるような工夫をする。

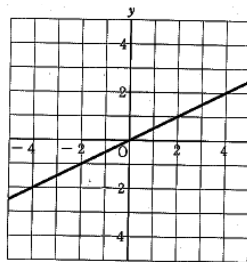
家庭にお願いしたいこと

- ◆学習教材や文房具など、家庭で準備するものについては、それらを使用する場面について話し合ったり、使用する機会をもつ。
- ◆毎日の生活の中から、数学的な発見ができることをめざし、いろいろなことにチャレンジさせる。

提案

問題例

問：右の図は比例 $y = \frac{1}{2}x$ のグラフです。Xの変域が $-4 \leq x \leq 2$ のとき、yの変域を $\square \leq y \leq \square$ の形で答えなさい。



正答 (2) - 2 y 1

問：1次関数 $y = 3x - 2$ において、xの値が1から4まで増加するとき、変化の割合を求めなさい。

正答 (1) 3

●比例と一次関数に関する設問。正答率はそれぞれ41.8%と26.3%。また、無答率はそれぞれ26.0%と38.6%と高く、課題の大きい内容の一つ。

●変域や変化の割合については、十分定着しておらず、文章題やB問題にも影響を及ぼしている。

学校で取り組むこと

- ともなって変わる数量の様子をしっかりと捉えることのできる題材を用いるなど、授業の流れを改めて見直す。
- 文章・表・グラフなどさまざまな視点から考える機会を授業の中でつくる。

家庭にお願いしたいこと

- ◆身のまわりにある数量表示に目をつけ、それを基に他の要素との関連性を考えるなど、数量に親しめるような場面を設定する。
- ◆場面の状況が想像できる力を養うため、日ごろから様々なジャンルの本に親しむようにする。

中学校 数学

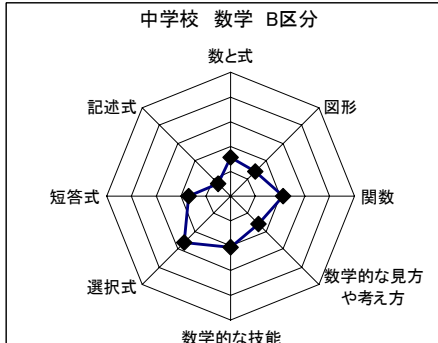
平成24年度 大阪府学力・学習状況調査 概要報告

B区分問題（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

昨年度に引き続き、すべての分野で大きな課題

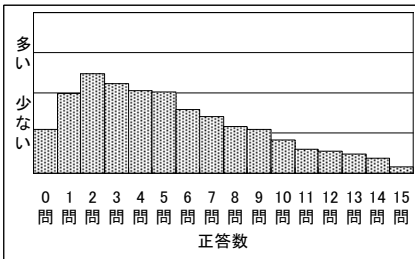


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「関数」領域で昨年度を上回るも、すべての領域でじゅうぶんな定着が見られない。
- 記述式の問題については、例年正答率が低く無答率が高いが、今回も同じような傾向であった。
- 約半数の問題で、正答率が30%を下回っていた。学習したことを発展・応用して考えることに大きな課題がある。

正答数分布

正答数5問以下に集中



- 正答数のピークは2問。
- 約6割の生徒が正答数5問以下に集中している。

全体の傾向

- 平均正答率は35.1% (昨年度より0.1ポイント上昇)
- 無答率 東大阪市: 18.9% (昨年21.1%)
大阪府: 15.4% (昨年18.5%)
- すべての設問において、府の無答率を上回る結果となった。

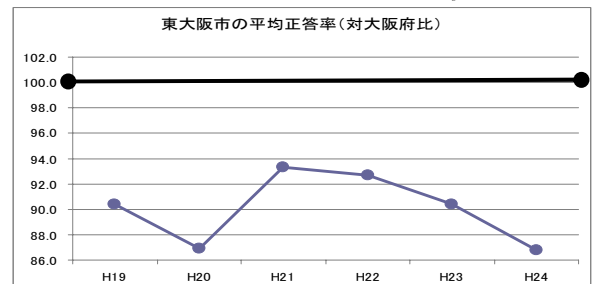
6年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

(H22年度までは全国学力・学習状況調査、H23・24年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

依然、厳しい状況が続いている

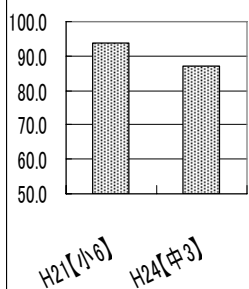
- 対大阪府比は86.8ポイントで3.6ポイントの減少。3年連続して下降しているが、今回は下降率が大いことから緊急性が高い。
- 「数と式」・「図形」領域では、6年間で最も低い値となった。また、記述問題でも低い値を推移している。



現中学3年生の小学6年生時との変化

現中学3年生は、3年前の小学6年生で第3回全国学力・学習状況調査を受けた生徒たちである。但し、小6時の対象数が4599名、中3時の対象数が4037名であり、その差は私立中学校等に進学した児童の数によるところが大きい。

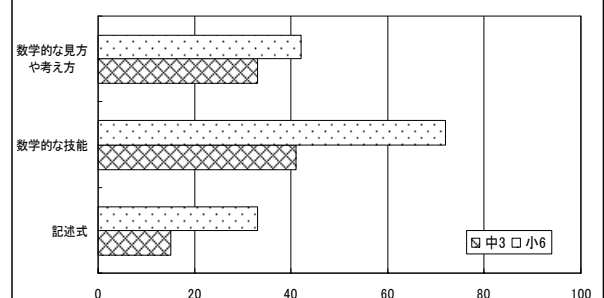
平均正答率(対大阪府比)



中学校での伸び悩みが見られる

- 平均正答率では、3年間で約7ポイントの下降となっている。
- いずれの項目についても、下降しているが、特に活用の場面でのつまずきが大きい。説明する力や学習したことを生徒自ら確認することが必要である。

出題形式による平均正答率の比較



B 区分問題 (主として「活用」に関する問題) にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

問題場面での考察対象は捉えられるが、どのように考えていくかの手段で思考が止まっている。説明する問題(記述式)での、無答率が非常に高い。

☆自分の考えを、自分の言葉で伝えよう! ☆最後まであきらめない!

設問から見てくる課題と対策

設問の意図と生徒の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

提案

問題例

図1のようにてんびんがあり、缶ジュースとおもりを使ってつり合いを取ろうとしています。おもり1個の重さは180gです。てんびんの中の数字～は、支点からの距離を表し、すべて等間隔に並んでいます。

(1) 右の表は、缶ジュースを③に、おもりを反対側の①～⑥の位置につるしたときに、それぞれつりあう重さを調べてまとめたものです。

①, ②, ③, ⑥の4か所は、おもりだけでつりあいが取れましたが、④, ⑤はつりあいが取れませんでした。

表の **A**, **B** に入る重さを計算して求めなさい。

正答

A : 270

B : 216

- 正答率は21.4%。(府は27.7%)
- 無答率が32.1%で、全体の1/3がこの問題に取り組みなかった。
- 与えられた情報の活用方法に課題が見られる。

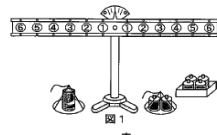


図	支点からの距離	重さ(g)
	1	1080
	2	540
	3	360
	4	A
	5	B
	6	180

学校で取り組むこと

- 与えられた情報から考えたりすることや、規則性などを見つけたりするような場面や題材を設定する。
- 既存の学習がどのように具体的問題に活用されるかについて、できるだけ多くの課題にふれさせる。

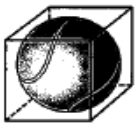
家庭にお願いしたいこと

- ◆お風呂の水の量と時間の関係、距離・時間・速さの関係、くじ引きの当たり等、身近にある関数や確率等について、家庭でも意識をもち、数学への関心が高まるような会話をする。

提案

問題例

下図のように、テニスボールが1個ぴったり入る立方体と円柱の容器があります。この2つの容器の表面積を比べた結果は、下のように表示することができます。あとの問いに答えなさい。ただし、テニスボールの半径を r 、円周率は π とし、容器の厚さは考えない。



立方体



円柱

正答 **A : $6\pi r^2$**

B : 立方体

(説明は省略)

結果

立方体の表面積は $24r^2$ 、円柱の表面積は **A** なので、**B** のほうが表面積が大きい。

上の **A** にあてはまる文字式とその求め方をかきなさい。また、**B** にあてはまる立体の名称とそれを選んだ理由を説明しなさい。

- 平均正答率は、Aが9.2%でBが6.5%。無答率はAが56.7%でBが46.0%と、今設問中もっとも難易度が高い問題となった。
- もともと定着の低い面積・体積の分野で、説明を必要とする問題であったことが、このような結果につながったと考えられる。

学校で取り組むこと

- スモールステップなどによって、生徒が自分の考えを引き出せるような授業展開を取り入れる。
- 自分の考えを相手に伝え合う活動を増やす。
- 面積・体積問題は例年苦手分野の一つでもあるので、小学校での学習とあわせて、くり返し学ぶ機会を設ける。

家庭にお願いしたいこと

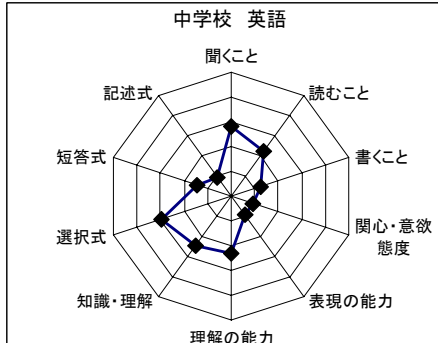
- ◆最後まであきらめず取り組もうとする態度を、日々の生活の中で養えるようにする。
- ◆日ごろから自分の考えを、他者に伝えていくような場面を設けたり、家庭内でコミュニケーションを多くとるようにする。

知識・技能及び活用力に関する問題

主として知識・技能に関する内容の問題と、それらを活用する力などに関する内容の問題とを合わせて出題

領域・観点・出題形式別

昨年度に引き続き、「書くこと」「表現の能力」に課題

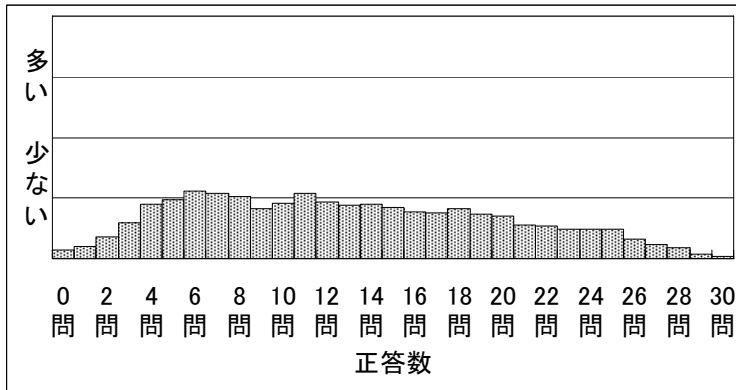


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「聞くこと」については相対的に理解度が高いが、記述式問題や「書くこと」については、課題が見られる。
- 全体の傾向は府の状況と概ね同じである。
- 「書くこと」の中でも、特に正しい文法で正確に書くことに課題が見られる。

正答数分布

昨年度より分布がやや左に移動



- 正答数6問（全30問）をピークとする丘陵型に近い山型をしており、生徒個々の習熟度が分散しているといえる。
- 府の平均と比べ、傾向はほぼ同じであるが、全体的に分布がやや左よりである。

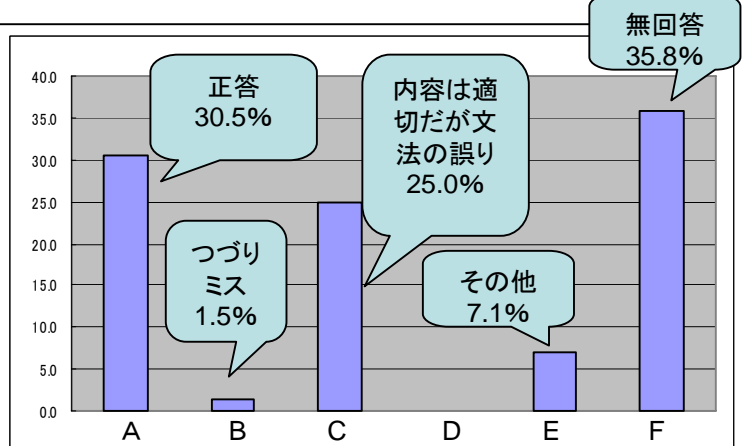
全体の傾向と分析

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合：88.9ポイント【昨年度92.8ポイント】
（英語は本年度が2回目である）

正確に読み取り、書く力に課題

- 平均正答率は43.3%である。
（昨年度より13.4ポイント下降）
- 無答率 東大阪市：15.6%（昨年10.5%）
大阪府：12.3%（昨年9.0%）
- 府・市ともに全体の正答率が昨年度より低く、無答率が高い結果となった。
- 「書くこと」について、正答率は低いが伝えたい内容を大まかに伝える力については（右表B, C）。他の設問の解答状況からも、正しい文法で正確に書くことに課題が見られる。

問題番号11(与えられたテーマに対して、それを説明する英文を書く問題)の解答類型



中学校英語問題にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

英語で表現する際に、ニュアンスを正確に伝えたり正確な文法表現を使用することに課題がある。
まとまった量の英文の内容を把握する力に課題がある。

☆全体を捉える読解力とより正確な表現力の育成！

設問から見てくる課題と対策

設問の意図と生徒の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい力を学校・家庭に提案します。

提案

問題例<問題5より一部抜粋>

★May I (h) you?
☆It (l) very old, but it is very beautiful.

()内に適切な単語を会話文の文脈から推測して書く。

正答(順に) help, looks

●決まり文句の一部を答える に対し、文脈から細かなニュアンスを読み取って、それをあらかず語彙を答える の正答率は大幅に低い。まとまった英文の細部まで深く読み取る力と、細やかな表現力に課題が見られる。

学校で取り組むこと

- 文脈の中で単語を問うなど、小テストや定期考査の出題を工夫する。
- 似ているがニュアンスの違う表現を比較して取り上げ、場面に応じて使い分ける練習をするなど、表現の幅を広げる。

家庭にお願いしたいこと

- ◆日常生活の中で、子どもとのコミュニケーションをできるだけ多く持つことで、会話の文脈を予想し、細かなニュアンスをつかむ力を育てる。
- ◆宿題以外に、自ら課題を見つけて取り組む時間を確保する。

提案

問題例 英文(138語)を読み、その内容についての<問題7> 質問に答える文の空欄に単語を書く問題

(前略)We will visit two Italian cities, Rome and Naples. At first, we are going to stay in Rome for three days. I want to go to many famous places. But it will be very hot, so my mother doesn't want to go to so many places. We will stay in Naples for two days after Rome. (後略)

☆How will the weather be in Rome this summer?
It will be very _____.
★How many days is Ken's family going to stay in Italy?
They are going to stay for ____ days.

正答(順に) hot, five

●下線部の情報から答えの得られる については、45.7%の正答率であったが、文脈や網掛けの2箇所の情報を読み取って答える の正答率は19.6%であった。一文ずつの内容を読み取る力についてはきているが、文章全体の意味を総合的に読み取る力の育成が課題である。

学校で取り組むこと

- 長文の要約や速読など英文の意味を全体的に把握する力をつける学習を増やす。
- 初出の長文の内容について問うなど、小テストや定期考査の出題を工夫する。

家庭にお願いしたいこと

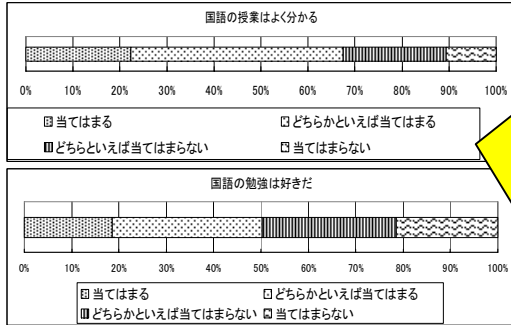
- ◆英文の内容を読み取る基礎となる読解力を高めるために、新聞や本などを読む機会をできるだけ多く作る。
- ◆映画や音楽など、身近な英語に触れることのできる機会を持つ。

生徒質問紙調査（教科に関する項目）

生徒に対して行った質問紙調査より

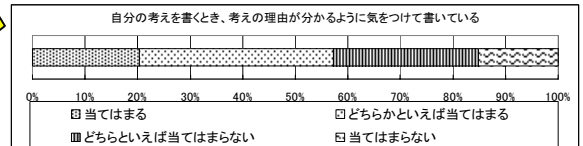
「国語」への意識

国語の授業で、自分の考えを人に分かりやすく伝えられる表現活動を工夫する



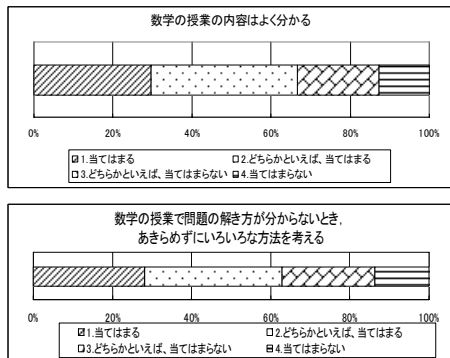
生徒が興味・関心を持ち、自ら積極的に取り組めるような、表現活動の工夫・充実を！

●7割近くの生徒が授業は分かるが、「国語の授業は好きだ」「国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」と答えた生徒は、6割より少なく、さらなる授業改善が必要である。



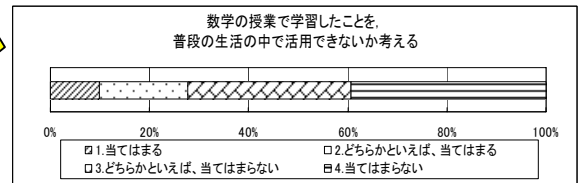
「数学」への意識

学んだことが十分いかしきれていない



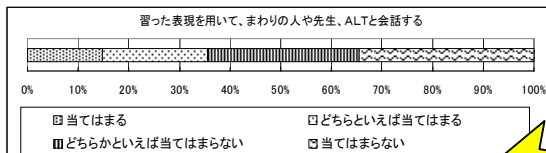
授業での学びが、日常生活や次の単元につながることを知り、数学のおもしろさを感じさせる！

●数学が好き、よく分かると肯定的に答える生徒は半数を超えている。また、ノートをとることやいろいろな考え方を模索する割合も高い。しかし、平均正答率における結果に表れていないことから、力の定着には至っていない現状が浮き彫りになっている。



「英語」への意識

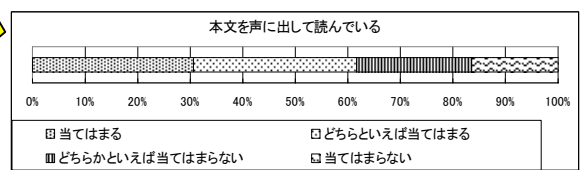
学んだ表現を実際に活用する場が確保され、生徒はそれを楽しんでいる



●「先生やALTと実際に会話をしている」と答えた生徒は府の平均を上回り、「授業内で自分の考えや表現を英語でスピーチすることがある」と答えた生徒も昨年より増加している。

基礎を定着することで、活用の時間をより効果的に！

●一方で、「授業で教科書の単語や本文を読むとき、声に出して読んでいる」と答えた生徒はやや減少傾向にある。音読などの基礎定着にも一層力を入れることで、英語を実際に活用する時間をより有効なものとする必要がある。



「学び」の観点からの小中連携を！
家庭学習習慣の定着がカギ！

学校で取り組むこと

- 小中のつながりを大切にし、子どもたちの「学び」の観点からの連携を強める。
- ICT機器の活用や言語活動の充実等さらなる授業改善に取り組む。
- 基礎基本の確実な定着をめざし、反復学習・家庭学習の効果的な指導を行う。

家庭にお願いしたいこと

- 規則正しい生活を続ける。
- 落ち着いて家庭学習に取り組める時間と環境を整えるとともに、子どものやる気を認め、ほめる。
- 世の中や身の回りの出来事に興味を持ち、感じたことや考えたことを話し合う機会を増やす。